

鳥取県がん検診実績報告書

令和6年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

鳥取県がん検診実績報告書

はじめに

第四次鳥取県がん対策推進計画が策定され、全体目標として「がんによる死亡者の減少」と「がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する」ことが目標に定められました。具体的には「75歳未満がん年齢調整死亡率（人口10万対）を61.0未満とする」ことが数値目標とされています。2022年は73.7、2023年は62.9と変動はあるものの改善傾向は続いております。その一翼をになうがん検診においては、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる影響を大きく受けており、受診率の低下もまだ十分には改善しておりません。受診行動の変化によるがん死亡への影響が実際にあるのか、全体の総死亡数の変化などを含め検証されることが求められています。

このたび、例年通り、令和5年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。当県におけるがん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸いに存じます。

令和6年3月

鳥取県健康対策協議会

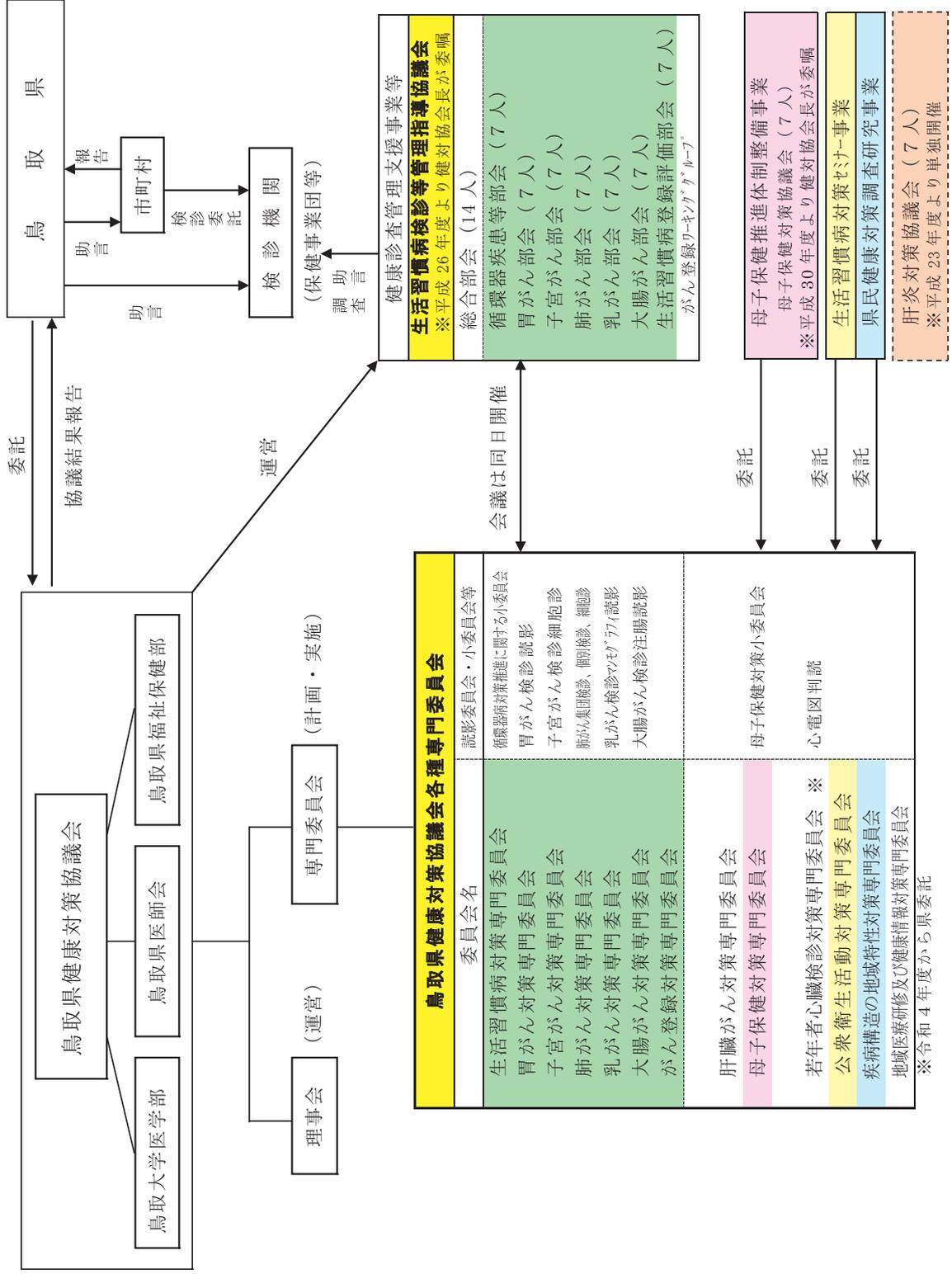
会長 渡 辺 憲

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 令和4年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	40
5. 大腸がん検診	47
6. 肝臓がん検診	56
7. 全国がん検診実績との比較	72
III. 令和5年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1) 胃がん検診症例研究会報告	76
2) 子宮がん検診症例研究会報告	78
3) 肺がん検診症例研究会報告	80
4) 乳がん検診症例研究会報告	82
5) 大腸がん検診症例研究会報告	84
6) 肝臓がん検診症例研究会報告	86
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	88

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 令和4年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数。

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上。

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

(1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者。

(2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

令和4年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は181,414人のうち、受診者数はX線検査7,579人、内視鏡検査は39,920人で合計47,499人、受診率は26.2%と令和3年度に比べ0.7ポイント減少した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は84.0%で、年々増加している。

このうち、40歳から69歳（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）では、対象者数63,987人、受診者数21,867人、受診率34.2%であった。

検査の結果、胃がんであった者は161人発見され（X線検査17人、内視鏡検査144人）、がん発見率は0.34%となり、前年度比0.08ポイント増加であった。

X線検査でのがん発見率は0.224%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.361%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査3.4%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ13.7%であった。

確定調査の結果、確定癌は165例、発見癌率は0.35%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は7,579人で、受診率は4.2%である。一次検診の要精検査者は502人で、要精検査率は6.6%で、前年度より0.2ポイント減少した。精検受診者数422人、精検受診率は84.1%で前年度より0.4ポイント増加した。車検診の要精検査率6.4%（東部5.2%、中部7.4%、西部7.3%）、施設検診は9.2%（東部9.2%、中部3.8%、西部9.6%）だった。

精検結果は、胃がんであった者は17人で、胃がん発見率は0.224%であった。

X線検査における国のプロセス指標は、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検査率が高い。

(2) 内視鏡検査は、19市町村で実施され、受診者数は39,920人で、検査結果は胃がんであった者は144人が発見され、発見率は0.361%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,049人で、組織診実施率2.6%、東部3.5%、中部3.4%、西部1.4%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は13.7%で、東部10.1%、中部12.8%、西部23.4%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	7,579 (16.0%)	17	0.224
内視鏡検査	19	0	39,920 (84.0%)	144	0.361
計			47,499 (100%)	161	0.339

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	6,861 (90.5%)	436	6.4	5.2	7.4	7.3
施設検診 (病院・診療所)	718 (9.5%)	66	9.2	9.2	3.8	9.6
計	7,579 (100%)	502	6.6	5.7	7.3	7.6

・精密検査

区分	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車検診	373	85.6	15	0.219	0.251	0.225	0.158
施設検診	49	74.2	2	0.279	0.513	0.000	—
計	422	84.1	17	0.224	0.280	0.221	0.136

(2) 内視鏡検診

区分	受診者数	組織診実施者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病院	11,046	370	57	0.516	0.522	0.554	0.475
診療所	28,874	679	87	0.301	0.240	0.393	0.312
計	39,920	1,049	144	0.361	0.349	0.438	0.339

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東部	3,571	203	5.7	173	85.2	10	0.280
中部	1,807	132	7.3	115	87.1	4	0.221
西部	2,201	167	7.6	134	80.2	3	0.136
計	7,579	502	6.6	422	84.1	17	0.224

(2) 内視鏡検診

区分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東部	16,310	567	3.5	57	0.349	10.1
中部	7,074	243	3.4	31	0.438	12.8
西部	16,536	239	1.4	56	0.339	23.4
計	39,920	1,049	2.6	144	0.361	13.7

※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

令和4年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃癌は165例（一次検査がX線検査：専検診16例、一次検査が内視鏡検査：149例）で、癌発見率は0.347%（東部0.342%、中部0.417%、西部0.320%）で、前年度に比べ、癌は35例増加した。

調査結果は以下のとおりである。

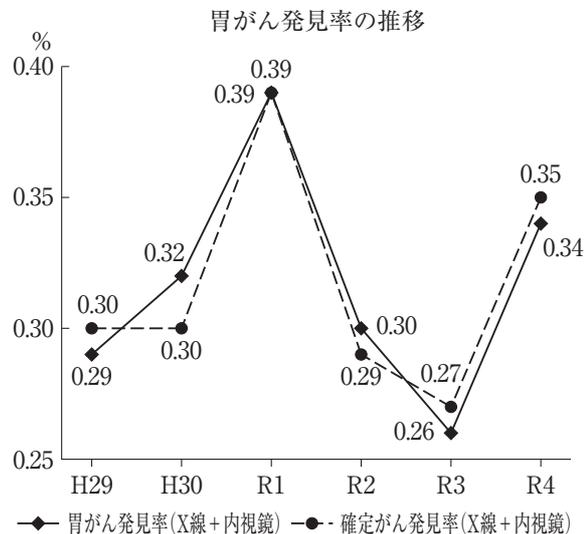
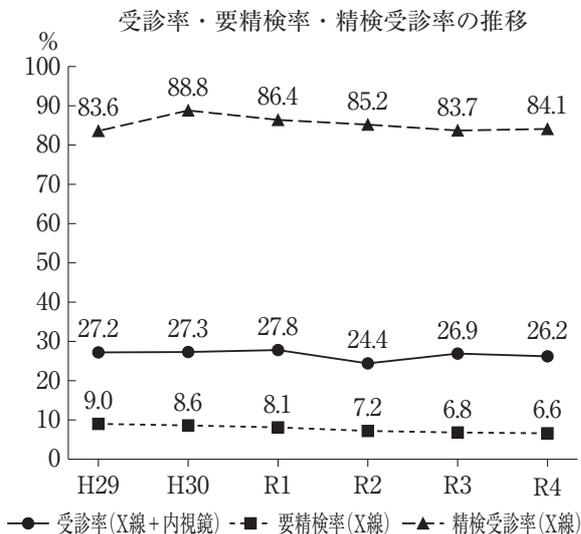
- (1) 早期癌は135例、進行癌は30例であった。早期癌率は81.8%（東部79.4%、中部83.8%、西部83.3%）であった。
- (2) 切除は78例で、内視鏡切除が86例であった。非切除例が1例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性121例、女性44例であった。40歳代3例、50歳代5例、60歳代38例、70歳代82例、80歳以上37例で、70歳代の男性が多い。
- (4) 早期癌では「IIc」が59%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が67%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが54%を占めている。一方で5cm以上のものが17例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage IAが10例で62.50%、内視鏡検査ではstage IAが120例で82.76%であった。Stage IVがX線検査で1例、内視鏡検査で1例、それぞれ見つかっている。
- (7) 逐年検診発見進行癌は12例（東部5例、中部2例、西部5例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 胃がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			189,132
	受診者数(人) B	11,029	40,453	51,482	10,415	41,196	51,611	9,649	42,845	52,494
	受診率(%) C=B/A	5.8	21.4	27.2	5.5	21.8	27.3	5.1	22.7	27.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	10,036			9,520			8,863		
	要精検者数(人) E	993			895			786		
	要精検率(%) F=E/B 指標:許容値1.0%以下	9.0			8.6			8.1		
精密検査	精検受診者数(人) G	830			795			679		
	精検受診率(%) H=G/E 指標:目標値90%以上	83.6			88.8			86.4		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	15(3)	133(85)	148(88)	15(2)	149(42)	164(44)	14(4)	193(74)	207(78)
	胃がん発見率(%) J=I/B 指標:許容値0.11%以上	0.14	0.33	0.29	0.14	0.36	0.32	0.15	0.45	0.39
	陽性反応適中度(%) K=I/E 指標:許容値1.0%以上	1.5			1.7			1.8		
確定調査結果	確定がん数(人) L	16	138	154	14	141	155	17	188	205
	確定がん率(%) M=L/B	0.15	0.34	0.30	0.13	0.34	0.30	0.18	0.44	0.39

区 分		令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			181,414			181,414
	受診者数(人) B	7,738	38,430	46,168	7,943	40,801	48,744	7,579	39,920	47,499
	受診率(%) C=B/A	4.1	20.3	24.4	4.4	22.5	26.9	4.2	22	26.2
一次検診結果	異常認めず(人) D	7,183			7,403			7,077		
	要精検者数(人) E	555			540			502		
	要精検率(%) F=E/B 指標:許容値1.0%以下	7.2			6.8			6.6		
精密検査	精検受診者数(人) G	473			452			422		
	精検受診率(%) H=G/E 指標:目標値90%以上	85.2			83.7			84.1		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	9(0)	129(71)	138(71)	8(1)	121(49)	129(49)	17(1)	144(47)	161(48)
	胃がん発見率(%) J=I/B 指標:許容値0.11%以上	0.12	0.34	0.3	0.1	0.3	0.26	0.22	0.36	0.34
	陽性反応適中度(%) K=I/E 指標:許容値1.0%以上	1.6			1.48			3.39		
確定調査結果	確定がん数(人) L	9	124	133	8	122	130	16	149	165
	確定がん率(%) M=L/B	0.12	0.32	0.29	0.1	0.3	0.27	0.21	0.37	0.35

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
 ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
 ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
 ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和4年度胃がんX線検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,972	3,512	200	367	6.7	10.4	8.7	5	7	195	360	2.5	1.9	2.1
45～49歳	3,210	3,799	199	382	6.2	10.1	8.3	9	5	190	377	4.5	1.3	2.4
50～54歳	2,743	3,589	160	353	5.8	9.8	8.1	5	7	155	346	3.1	2.0	2.3
55～59歳	2,891	4,281	186	356	6.4	8.3	7.6	15	16	171	340	8.1	4.5	5.7
60～64歳	5,176	7,615	362	602	7.0	7.9	7.5	19	24	343	578	5.2	4.0	4.5
65～69歳	10,744	13,455	634	773	5.9	5.7	5.8	54	42	580	731	8.5	5.4	6.8
70～74歳	14,256	17,509	715	775	5.0	4.4	4.7	78	53	637	722	10.9	6.8	8.8
75～79歳	11,216	15,094	461	433	4.1	2.9	3.4	59	38	402	395	12.8	8.8	10.9
80歳以上	19,085	40,267	312	309	1.6	0.8	1.0	41	25	271	284	13.1	8.1	10.6
計	72,293	109,121	3,229	4,350	4.5	4.0	4.2	285	217	2,944	4,133	8.8	5.0	6.6
合計	181,414		7,579		4.2			502		7,077		6.6		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f/d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h/b			陽性反応の中度 (%) j = h/d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	4	5	80.0	71.4	75.0	1	1	3	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	6	4	66.7	80.0	71.4	1	1	4	3	0	0	1	0	0.503	0.000	0.172	11.1	0.0	7.1
50～54歳	3	7	60.0	100.0	83.3	1	1	2	6	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	11	14	73.3	87.5	80.6	1	5	9	9	0	0	1	0	0.538	0.000	0.185	6.7	0.0	3.2
60～64歳	12	21	63.2	87.5	76.7	2	4	9	15	0	0	1	2	0.276	0.332	0.311	5.3	8.3	7.0
65～69歳	43	36	79.6	85.7	82.3	10	9	30	27	1	0	2	0	0.315	0.000	0.142	3.7	0.0	2.1
70～74歳	66	45	84.6	84.9	84.7	13	9	48	35	0	0	5	1	0.699	0.129	0.403	6.4	1.9	4.6
75～79歳	53	36	89.8	94.7	91.8	4	7	46	29	0	0	3	0	0.651	0.000	0.336	5.1	0.0	3.1
80歳以上	36	20	87.8	80.0	84.8	5	4	31	15	0	0	0	1	0.000	0.324	0.161	0.0	4.0	1.5
計	234	188	82.1	86.6	84.1	38	41	182	143	1	0	13	4	0.403	0.092	0.224	4.6	1.8	3.4
合計	422		84.1			79		325		1		17		0.224			3.4		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

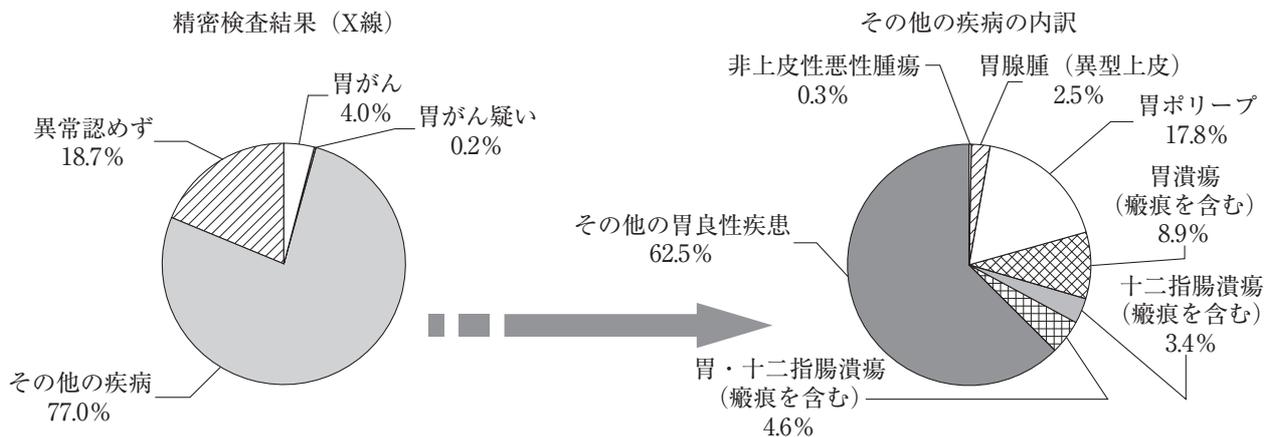
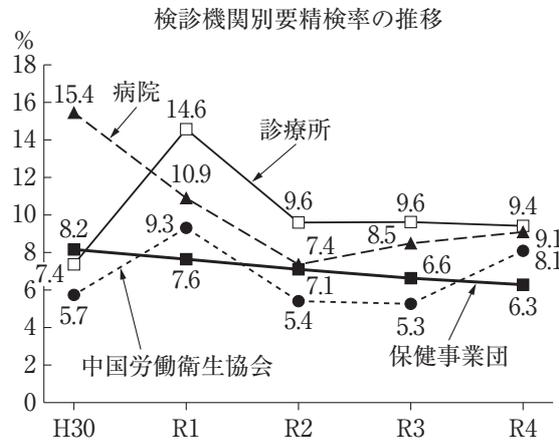
一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b'/a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	2,817	3,772	242	172	2,575	3,600	8.6	4.6	6.3
中国労働衛生協会	97	175	11	11	86	164	11.3	6.3	8.1
病院	209	286	18	27	191	259	8.6	9.4	9.1
診療所	106	117	14	7	92	110	13.2	6.0	9.4
計	3,229	4,350	285	217	2,944	4,133	8.8	5.0	6.6
合計	7,579		502		7,077		6.6		

b. 検診機関別

年 齢	精密検査 受診者数 d'		精密検査 受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応的中度 (%) h' = f' / b'		
	男	女	男	女	計	異 常 認 め ず		その 他 の 疾 病		胃 が ん 疑 い		胃 が ん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	204	151	84.3	87.8	85.7	31	29	161	118	1	0	11	4	0.390	0.106	0.228	4.5	2.3	3.6
中国労働衛生協会	8	10	72.7	90.9	81.1	4	3	4	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車 検 診 小 計	212	161	83.8	88.0	85.6	35	32	165	125	1	0	11	4	0.377	0.101	0.219	4.3	2.2	3.4
病 院	11	22	61.1	81.5	73.3	1	7	8	15	0	0	2	0	0.957	0.000	0.404	11.1	0.0	4.4
診 療 所	11	5	78.6	71.4	76.2	2	2	9	3	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
施 設 検 診 小 計	22	27	68.8	79.4	74.2	3	9	17	18	0	0	2	0	0.635	0.000	0.279	6.3	0.0	3.0
計	234	188	82.1	86.6	84.1	38	41	182	143	1	0	13	4	0.403	0.092	0.224	4.6	1.8	3.4
合 計	422		84.1			79		325		1		17		0.224			3.4		

・ 検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
保 健 事 業 団	8.2	7.6	7.1	6.6	6.3
中国労働衛生協会	5.7	9.3	5.4	5.3	8.1
車 検 診 小 計	8.1	7.7	7.0	6.6	6.4
病 院	15.4	10.9	7.4	8.5	9.1
診 療 所	7.4	14.6	9.6	9.6	9.4
施 設 検 診 小 計	13.7	12.4	8.3	8.9	9.2
合 計	9.0	8.6	7.2	6.8	6.6



4) 令和4年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) Q = O/D R = O/H	陽性反応 適中度					
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K = J/H	異 常 認めず L	その他の 疾病 M	がん N	がん疑い O			有所見者 P = M + N + O				
																			鳥取市	米子市	倉吉市	境港市
鳥取市	57,633	1,944	357	2,301	4.0	90	34	124	5.4	106	85.5	13	88	5	0	93	0.217	4.0				
米子市	43,796	339	178	517	1.2	12	15	27	5.2	22	81.5	4	17	1	0	18	0.193	3.7				
倉吉市	16,163	319	13	332	2.1	20	1	21	6.3	20	95.2	8	11	1	0	12	0.301	4.8				
境港市	10,796	216	93	309	2.9	21	12	33	10.7	28	84.8	10	18	0	0	18	0.000	0.0				
岩美町	4,245	366	0	366	8.6	28	0	28	7.7	26	92.9	2	22	2	0	24	0.546	7.1				
八頭町	5,674	687	31	718	12.7	38	2	40	5.6	33	82.5	6	24	3	0	27	0.418	7.5				
若桜町	1,336	73	2	75	5.6	6	0	6	8.0	5	83.3	2	3	0	3	0.000	0.0					
智頭町	2,723	111	0	111	4.1	5	0	5	4.5	3	60.0	0	3	0	3	0.000	0.0					
湯梨浜町	5,319	449	0	449	8.4	34	0	34	7.6	31	91.2	7	22	2	0	24	0.445	5.9				
三朝町	2,336	258	0	258	11.0	19	0	19	7.4	13	68.4	2	11	0	0	11	0.000	0.0				
北栄町	5,250	377	5	382	7.3	29	0	29	7.6	25	86.2	6	19	0	0	19	0.000	0.0				
琴浦町	6,243	378	8	386	6.2	29	0	29	7.5	26	89.7	6	18	1	0	20	0.259	3.4				
南部町	3,722	138	0	138	3.7	15	0	15	10.9	13	86.7	0	13	0	0	13	0.000	0.0				
伯耆町	4,091	281	18	299	7.3	14	2	16	5.4	11	68.8	1	8	2	0	10	0.669	12.5				
日吉津村	981	99	13	112	11.4	7	0	7	6.3	6	85.7	0	6	0	0	6	0.000	0.0				
大山町	6,342	485	0	485	7.6	33	0	33	6.8	26	78.8	5	21	0	0	21	0.000	0.0				
日南町	2,198	166	0	166	7.6	16	0	16	9.6	11	68.8	0	11	0	0	11	0.000	0.0				
日野町	1,340	83	0	83	6.2	8	0	8	9.6	7	87.5	0	7	0	0	7	0.000	0.0				
江府町	1,226	92	0	92	7.5	12	0	12	13.0	10	83.3	7	3	0	0	3	0.000	0.0				
合計	181,414	6,861	718	7,579	4.2	436	66	502	6.6	422	84.1	79	325	17	1	343	0.224	3.4				
東部	71,611	3,181	390	3,571	5.0	167	36	203	5.7	173	85.2	23	140	10	0	150	0.280	4.9				
中部	35,311	1,781	26	1,807	5.1	131	1	132	7.3	115	87.1	29	81	4	1	86	0.221	3.0				
西部	74,492	1,899	302	2,201	3.0	138	29	167	7.6	134	80.2	27	104	3	0	107	0.136	1.8				

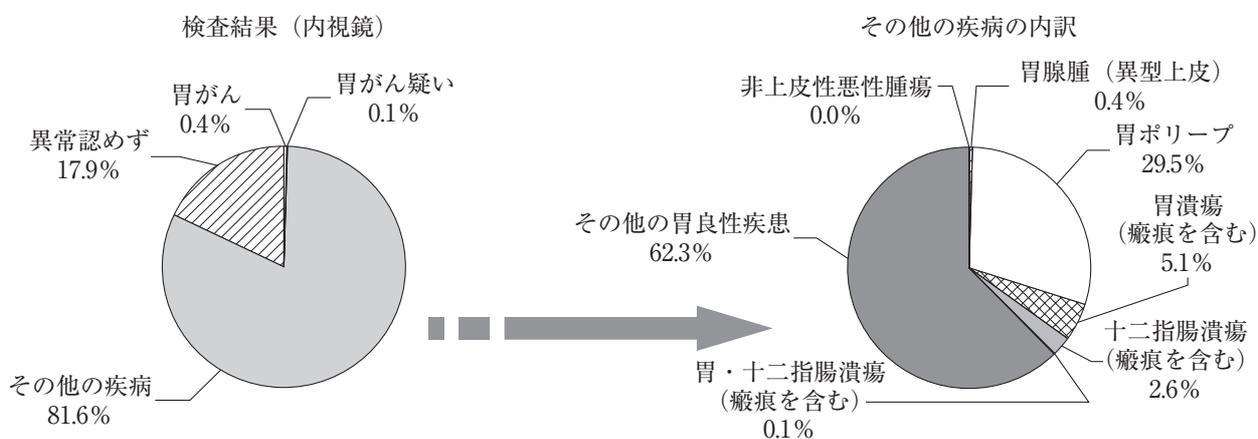
(3) 令和4年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		c = b / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	459	822	175	300	284	522	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	595	1097	183	351	409	746	1	0	2	0	0.336	0.000	0.118
50～54歳	647	1,185	201	322	443	862	1	1	2	0	0.309	0.000	0.109
55～59歳	706	1,423	159	352	545	1,069	0	1	2	1	0.283	0.070	0.141
60～64歳	1,374	2,401	226	484	1,138	1,912	1	0	9	5	0.655	0.208	0.371
65～69歳	2,923	3,661	417	669	2,491	2,980	4	4	11	8	0.376	0.219	0.289
70～74歳	4,438	5,185	589	833	3,817	4,338	9	4	23	10	0.518	0.193	0.343
75～79歳	3,040	3,687	371	562	2,636	3,109	8	4	25	12	0.822	0.325	0.550
80歳以上	2,786	3,491	391	563	2,359	2,921	8	1	28	6	1.005	0.172	0.542
計	16,968	22,952	2,712	4,436	14,122	18,459	32	15	102	42	0.601	0.183	0.361
合 計	39,920		7,148		32,581		47		144		0.361		

2) 検診機関別

年 齢	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	5,005	6,041	607	834	4,340	5,185	16	7	42	15	0.839	0.248	0.516
診 療 所	11,963	16,911	2,105	3,602	9,782	13,274	16	8	60	27	0.502	0.160	0.301
計	16,968	22,952	2,712	4,436	14,122	18,459	32	15	102	42	0.601	0.183	0.361
合計	39,920		7,148		32,581		47		144		0.361		



3) 令和4年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	が ん 発 見 率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	13,087	469	3.6	1,758	11,278	12	39	11,329	0.298	8.3
米子市	10,336	154	1.5	1,797	8,495	8	36	8,539	0.348	23.4
倉吉市	3,229	105	3.3	646	2,562	4	17	2,583	0.526	16.2
境港市	2,517	5	0.2	676	1,831	1	9	1,841	0.358	180.0
岩美町	679	24	3.5	74	600	1	4	605	0.589	16.7
八頭町	1,323	41	3.1	230	1,081	0	12	1,093	0.907	29.3
若桜町	552	15	2.7	41	510	0	1	511	0.181	6.7
智頭町	669	18	2.7	39	628	1	1	630	0.149	5.6
湯梨浜町	1,116	48	4.3	285	820	6	5	831	0.448	10.4
三朝町	405	0	0.0	267	134	2	2	138	0.494	0.0
北栄町	1,226	49	4.0	251	965	6	4	975	0.326	8.2
琴浦町	1,098	41	3.7	342	752	1	3	756	0.273	7.3
南部町	1,242	64	5.2	107	1,129	3	3	1,135	0.242	4.7
伯耆町	963	0	0.0	79	883	1	0	884	0.000	0.0
日吉津村	252	4	1.6	101	149	0	2	151	0.794	50.0
大山町	552	2	0.4	107	444	0	1	445	0.181	50.0
日南町	275	0	0.0	59	212	1	3	216	1.091	0.0
日野町	93	0	0.0	46	47	0	0	47	0.000	0.0
江府町	306	10	3.3	243	61	0	2	63	0.654	20.0
合 計	39,920	1,049	2.6	7,148	32,581	47	144	32,772	0.361	13.7
東 部	16,310	567	3.5	2,142	14,097	14	57	14,168	0.349	10.1
中 部	7,074	243	3.4	1,791	5,233	19	31	5,283	0.438	12.8
西 部	16,536	239	1.4	3,215	13,251	14	56	13,321	0.339	23.4

(4) 令和4年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果					がん 発見率 (%) K = I / D
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J = G + H + I	
鳥取市	57,633	2,301	13,087	15,388	26.7	1,771	11,366	44	12	11,422	0.286
米子市	43,796	517	10,336	10,853	24.8	1,801	8,512	37	8	8,557	0.341
倉吉市	16,163	332	3,229	3,561	22.0	654	2,573	18	4	2,595	0.505
境港市	10,796	309	2,517	2,826	26.2	686	1,849	9	1	1,859	0.318
岩美町	4,245	366	679	1,045	24.6	76	622	6	1	629	0.574
八頭町	5,674	718	1,323	2,041	36.0	236	1,105	15	0	1,120	0.735
若桜町	1,336	75	552	627	46.9	43	513	1	0	514	0.159
智頭町	2,723	111	669	780	28.6	39	631	1	1	633	0.128
湯梨浜町	5,319	449	1,116	1,565	29.4	292	842	7	6	855	0.447
三朝町	2,336	258	405	663	28.4	269	145	2	2	149	0.302
北栄町	5,250	382	1,226	1,608	30.6	257	984	4	6	994	0.249
琴浦町	6,243	386	1,098	1,484	23.8	348	770	4	2	776	0.270
南部町	3,722	138	1,242	1,380	37.1	107	1,142	3	3	1,148	0.217
伯耆町	4,091	299	963	1,262	30.8	80	891	2	1	894	0.158
日吉津村	981	112	252	364	37.1	101	155	2	0	157	0.549
大山町	6,342	485	552	1,037	16.4	112	465	1	0	466	0.096
日南町	2,198	166	275	441	20.1	59	223	3	1	227	0.680
日野町	1,340	83	93	176	13.1	46	54	0	0	54	—
江府町	1,226	92	306	398	32.5	250	64	2	0	66	0.503
合計	181,414	7,579	39,920	47,499	26.2	7,227	32,906	161	48	33,115	0.339
東部	71,611	3,571	16,310	19,881	27.8	2,165	14,237	67	14	14,318	0.337
中部	35,311	1,807	7,074	8,881	25.2	1,820	5,314	35	20	5,369	0.394
西部	74,492	2,201	16,536	18,737	25.2	3,242	13,355	59	14	13,428	0.315

(5) 令和4年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	10	0	58	3	0	34	3	0	57	165
胃癌発見率%	0.280	0.000	0.356	0.166	0.000	0.481	0.136	0.000	0.345	
	68 0.342			37 0.417			60 0.320			0.347
早期胃癌数	6	0	48	2	0	29	2	0	48	135
早期胃癌率%	54 79.4			31 83.8			50 83.3			
進行胃癌数	4	0	10	1	0	5	1	0	9	30
切除例	9	0	25	1	0	16	2	0	25	78
内視鏡切除例	1	0	32	2	0	18	1	0	32	86
非切除例	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	3	4	24	60	30	121
女	0	1	14	22	7	44

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	2	1	0	2	0	0	2	7	5%
I + II a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
II a	1	0	3	1	0	5	0	0	10	20	15%
II a + II b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
II b	0	0	2	0	0	1	0	0	3	6	4%
II c	3	0	28	0	0	17	2	0	30	80	59%
II c + I	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1%
II c + II a	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1%
II c + III	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1%
II b + II c	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
II a + II c	2	0	9	0	0	2	0	0	1	14	10%
III	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1%
不明	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3	2%
計	6	0	48	2	0	29	2	0	48	135	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	7%
2	3	0	7	0	0	3	1	0	6	20	67%
3	1	0	2	1	0	0	0	0	2	6	20%
4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3%
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
不 明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3%
計	4	0	10	1	0	5	1	0	9	30	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
t1a	2	0	38	2	0	22	1	0	34	99	
t1b	4	0	10	0	0	7	1	0	14	36	
t2	2	0	5	0	0	1	0	0	6	14	
t3	2	0	2	0	0	2	1	0	1	8	
t4a	0	0	1	1	0	2	0	0	2	6	
t4b	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
計	10	0	57	3	0	34	3	0	57	164	
不 明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	2	5	7	44%	5	4	16	0
施	0	0	0	0%	0	0	0	0
内	28	51	79	55%	52	13	144	4
計	30	56	86	54%	57	17	160	4

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	20
M	6	0	55
L	3	0	45
全 体	0	0	0
計	10	0	120
不 明	0	0	5

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	4	0	60
大 弯	2	0	14
前 壁	3	0	17
後 壁	1	0	26
全 周	0	0	0
計	10	0	117
不 明	0	0	8

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	11
M	3	0	7
L	2	0	5
D	0	0	0
全 体	0	0	0
計	5	0	23
不 明	1	0	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	1	0	9
大 弯	0	0	4
前 壁	1	0	4
後 壁	2	0	2
全 周	0	0	3
計	4	0	22
不 明	2	0	2

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡 検 診	X 線	内		
I A	6	0	47	2	0	28	2	0	45	10	0	120	10	62.50%	120	82.76%
I B	0	0	3	0	0	2	0	0	6	0	0	11	0	0.00%	11	7.59%
II A	3	0	2	0	0	0	1	0	4	4	0	6	4	25.00%	6	4.14%
II B	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	3	1	6.25%	3	2.07%
III A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%	0	0.00%
III B	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.00%	2	1.38%
III C	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0.00%	2	1.38%
IV	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	6.25%	1	0.69%
計	10	0	56	3	0	33	3	0	56	16	0	145	16	100%	145	100%
不明	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	4	0		4	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

令和4年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）121,933人のうち、受診者数30,310人、受診率24.9%で、令和3年度に比べ、受診率は0.5ポイント減であった。

このうち、20歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数49,063人、受診者数23,923人、受診率48.8%であった。

要精検者数は351人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が23人であった。要精検率は1.16%で、令和3年度に比べ0.03ポイント減少した。

精検受診者数284人、精検受診率80.9%で令和3年度に比べ0.4ポイント増加した。

精検の結果、がん6人、がん発見率（がん/受診者数）は0.02%で、令和3年度に比べ0.01ポイント増加した。

陽性反応適中度（がん/要精検者数）は1.7%であった。上皮内病変は90人（CIN3 13人、CIN2 15人、CIN1 61人、CIN2か3区別不能1人）であった。

精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、要精検率は許容値を満たしているが、がん発見率、陽性反応適中度はいずれも国の許容値に届いていない状況である。

精密検査結果のうち、上皮内病変31.8%を占めており、若年者層から多く見つまっている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	9,538 (31.5%)	57 (55)	0.60 (0.58)	0.79	0.38	0.41
施 設 検 診 (病院・診療所)	20,772 (68.5%)	294 (283)	1.42 (1.36)	1.77	0.97	1.27
計	30,310 (100%)	351 (338)	1.16 (1.12)	1.39	0.68	1.13

※要精検者数の（ ）は、判定不能の者のうち、再検が未実施者のを除く

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	45	78.9	1	0.010	0.000	0.000	0.051
施 設 検 診	239	81.3	5	0.024	0.026	0.036	0.020
計	284	80.9	6	0.020	0.016	0.018	0.025

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	4,929	39	0.79	32	82.1	15	0	0.000
中 部	2,636	10	0.38	8	80.0	1	0	0.000
西 部	1,973	8	0.41	5	62.5	1	1	0.051
計	9,538	57	0.60	45	78.9	17	1	0.010

(2) 施設検診検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	7,736	137	1.77	115	83.9	53	2	0.026
中 部	2,780	27	0.97	19	70.4	4	1	0.036
西 部	10,256	130	1.27	105	80.8	16	2	0.020
計	20,772	294	1.42	239	81.3	73	5	0.024

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者30,310人中、体部がん検診対象者数は1,227人、一次検診会場での受診者は984人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は170人、受診者の合計は1,154人、受診率は94.1%であった。

一次検診の結果、要精検となった者25人、要精検率2.54%、精密検査受診者数は20人で、精密検査受診率80.0%であった。精検の結果、子宮体部がんが7人発見され、がん発見率は0.61%であった。陽性反応適中度24.0%であった。子宮内膜増殖症は3件であった。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

令和4年度は子宮頸部癌6例で、I A期1例、I B期以上が5例であった。治療対象のCIN3またはAISは14例であった。CIN1、2または腺異形成71例であった。令和3年度に比べ、子宮頸部癌は4例増加、CIN3またはAISは18例減少した。なお、I B期以上6例の検診歴は、2年間隔1例、3年以上の間隔2例、初回受診3例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は4例、子宮内膜増殖症7例であった。

4. その他

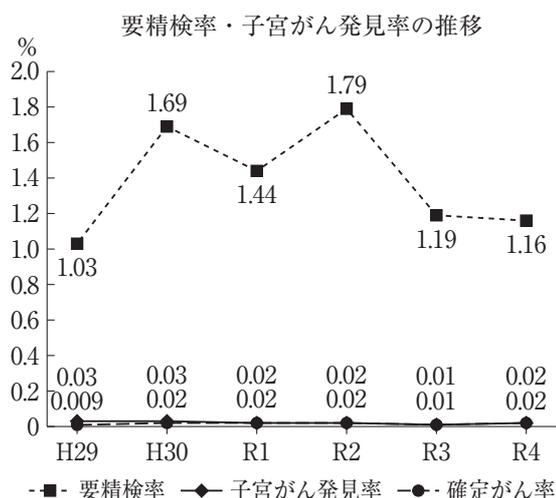
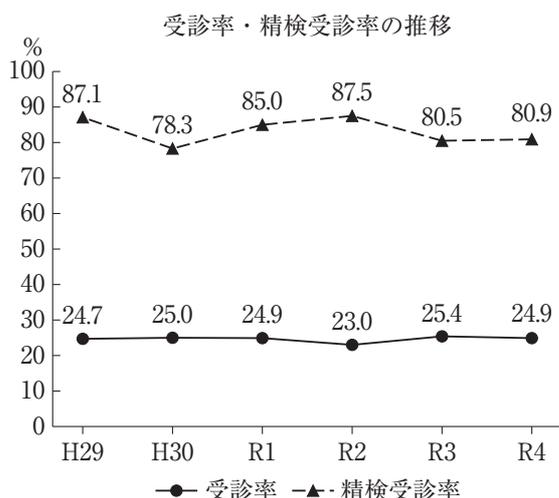
1) 令和4年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

令和4年度実績は、妊婦健康診査受診者3,423人中、子宮頸部がん検診受診者数3,396人、受診率99.2%で、要精検者数69人、要精検率2.0%、精検受診者数58人、精検受診率84.1%で精検結果がんは発見されていない。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

	区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一次検診	対象者数(人) A	129,896	129,896	129,896	129,896	121,933	121,933
	受診者数(人) B	32,138	32,455	32,318	29,851	30,942	30,310
	受診率(%) C = B/A	24.7	25.0	24.9	23.0	25.4	24.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	31,807	31,906	31,852	29,317	30,573	29,959
	要精検者数(人) E	331	549	466	534	369	351
	判定不能(人) F	36	45	14	13	18	23
	要精検率(%) G = E/B 指標：許容値1.4%以下	1.03	1.69	1.44	1.79	1.19	1.16
精密検査	精検受診者数(人) H	257	430	396	467	297	284
	精検受診率(%) I = H/E 指標：目標値90%以上	87.1	78.3	85.0	87.5	80.5	80.9
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	10(130)	9(189)	6(127)	6(144)	2(118)	6(90)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標：許容値0.05%以上	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02
	陽性反応適中度(%) L = J/E 指標：許容値4.0%以上	3.4	1.6	1.3	1.1	0.5	1.7
確定調査結果	確定がん数(人) M	3	5	5	6	2	6
	確定がん率(%) N = M/B	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02

- * 1 精密検査結果欄の（ ）内の数値は、平成29年度までは異形成の者、平成30年度からは上皮内病変の者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 対象者数について、平成20年度報告から、20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚労省が示す算定式により算出した推計数を計上
- * 6 要精検者数について、平成22年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上



(2) 令和4年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,556	573	16.1	172	22	1	551	3.84
25～29歳	2,496	1,074	43.0	572	34	0	1,040	3.17
30～34歳	3,195	1,680	52.6	1,057	55	2	1,625	3.27
35～39歳	3,565	2,359	66.2	1,668	45	3	2,314	1.91
40～44歳	3,512	3,041	86.6	2,302	63	1	2,978	2.07
45～49歳	3,799	3,163	83.3	2,556	46	3	3,117	1.45
50～54歳	3,589	2,868	79.9	2,280	34	5	2,834	1.19
55～59歳	4,281	2,459	57.4	2,054	22	2	2,437	0.89
60～64歳	7,615	3,241	42.6	2,720	10	3	3,231	0.31
65～69歳	13,455	3,465	25.8	3,062	11	3	3,454	0.32
70～74歳	17,509	3,535	20.2	3,192	4	0	3,531	0.11
75～79歳	15,094	1,900	12.6	1,742	2	0	1,898	0.11
80歳以上	40,267	952	2.4	868	3	0	949	0.32
計	121,933	30,310	24.9	24,245	351	23	29,959	1.16

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	異常認めず	子宮がん h	精密検査結果								未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) i = h/b	陽性反応適中度 (%) k = h/d
					上皮内病変				その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い又は未確定	その他疾患					
20～24歳	19	86.4	5	0	0	1	1	7	0	2	3	1	1	0.000	0.0	
25～29歳	30	88.2	12	0	0	2	2	9	0	4	1	1	3	0.000	0.0	
30～34歳	50	90.9	14	1	1	4	4	13	0	7	7	3	1	0.060	1.8	
35～39歳	35	77.8	10	0	0	2	2	7	1	2	11	3	4	0.000	0.0	
40～44歳	54	85.7	15	0	0	4	2	8	0	10	15	0	5	0.000	0.0	
45～49歳	35	76.1	15	1	0	0	3	7	0	3	6	5	5	0.032	2.2	
50～54歳	26	76.5	7	0	0	0	0	6	0	5	8	7	0	0.000	0.0	
55～59歳	16	72.7	4	1	0	0	1	2	0	3	5	2	4	0.041	4.5	
60～64歳	7	70.0	1	1	0	0	0	1	0	1	3	2	0	0.031	10.0	
65～69歳	6	54.5	1	2	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0.058	18.2	
70～74歳	3	75.0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0.000	0.0	
75～79歳	2	100.0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
80歳以上	1	33.3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.000	0.0	
計	284	80.9	86	6	1	13	15	61	1	38	64	30	23	0.020	1.7	

3) 検診機関別

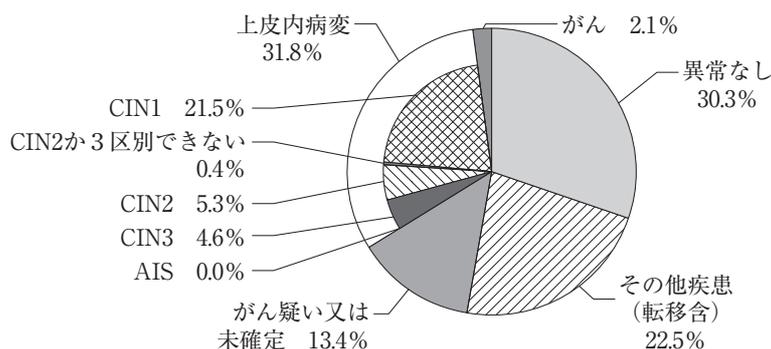
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果			要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	9,219	52	0	9,167	0.56
中国労働衛生協会	319	5	2	314	1.57
病院	6,802	41	3	6,761	0.60
診療所	13,970	253	18	13,717	1.81
計	30,310	351	23	29,959	1.16

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d' / b'	異常認めず f'	子宮がん f'	精密検査結果								未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'
					上皮内病変				その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い又は未確定	その他疾患					
保健事業団	42	80.8	19	1	0	4	1	10	1	0	6	5	4	0.011	1.9	
中国労働衛生協会	3	60.0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0.000	0.0	
病院	33	80.5	11	1	0	0	2	5	0	6	8	2	2	0.015	2.4	
診療所	206	81.4	54	4	1	9	12	45	0	32	50	21	17	0.029	1.6	
計	284	80.9	86	6	1	13	15	61	1	38	64	30	23	0.020	1.7	

精密検査結果 (受診者数 = 284人)



4) 令和4年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R = O/D	陽性反応適中 (%) S = O/H		
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H/D	精検受診者数 J	精検受診率 (%) K = J/H	異常認めず L	その他疾病等 M	がん又は上皮内病変 N = O + P	がん O			上皮内病変 P	有所見者 Q = M + N
鳥取市	39,440	3,193	6,891	10,084	25.6	32	124	156	1.55	133	85.3	38	28	67	2	65	95	0.020	1.3
米子市	31,241	94	6,979	7,073	22.6	0	102	102	1.44	84	82.4	19	49	16	2	14	65	0.028	2.0
倉吉市	10,745	453	1,501	1,954	18.2	2	16	18	0.92	17	94.4	7	6	4	1	3	10	0.051	5.6
境港市	7,293	421	1,516	1,937	26.6	2	12	14	0.72	11	78.6	1	8	2	0	2	10	0.000	0.0
岩美町	2,633	445	273	718	27.3	1	5	6	0.84	5	83.3	2	2	1	0	1	3	0.000	0.0
八頭町	3,578	857	379	1,236	34.5	4	6	10	0.81	5	50.0	4	0	1	0	1	1	0.000	0.0
若桜町	810	192	57	249	30.7	1	1	2	0.80	2	100.0	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
智頭町	1,680	242	136	378	22.5	1	1	2	0.53	2	100.0	1	0	1	0	1	1	0.000	0.0
湯梨浜町	3,362	620	438	1,058	31.5	2	3	5	0.47	4	80.0	3	0	1	0	1	1	0.000	0.0
三朝町	1,461	261	139	400	27.4	0	3	3	0.75	1	33.3	1	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	3,293	658	412	1,070	32.5	4	3	7	0.65	3	42.9	2	0	1	0	1	1	0.000	0.0
琴浦町	3,907	644	290	934	23.9	2	2	4	0.43	2	50.0	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
南部町	2,324	203	461	664	28.6	0	5	5	0.75	2	40.0	1	1	0	0	0	1	0.000	0.0
伯耆町	2,610	356	326	682	26.1	2	1	3	0.44	2	66.7	0	1	1	1	0	2	0.147	33.3
日吉津村	714	61	231	292	40.9	0	1	1	0.34	1	100.0	0	1	0	0	0	1	0.000	0.0
大山町	3,884	529	413	942	24.3	1	7	8	0.85	7	87.5	2	4	1	0	1	5	0.000	0.0
日南町	1,329	148	63	211	15.9	1	2	3	1.42	2	66.7	2	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	853	161	11	172	20.2	2	0	2	1.16	1	50.0	1	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	776	0	256	256	33.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合計	121,933	9,538	20,772	30,310	24.9	57	294	351	1.16	284	80.9	86	102	96	6	90	198	0.020	1.7
東部	48,141	4,929	7,736	12,665	26.3	39	137	176	1.39	147	83.5	46	31	70	2	68	101	0.016	1.1
中部	22,768	2,636	2,780	5,416	23.8	10	27	37	0.68	27	73.0	14	7	6	1	5	13	0.018	2.7
西部	51,024	1,973	10,256	12,229	24.0	8	130	138	1.13	110	79.7	26	64	20	3	17	84	0.025	2.2

※1 令和元年度から上皮内病変には「AIS」「CIN3」「CIN2」「CIN1」及び「CIN2又は3のいずれかで区別できない者(HSIL)」の合計を計上。

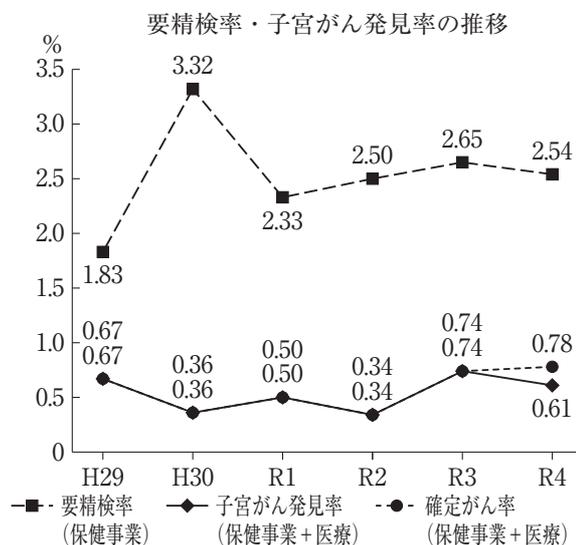
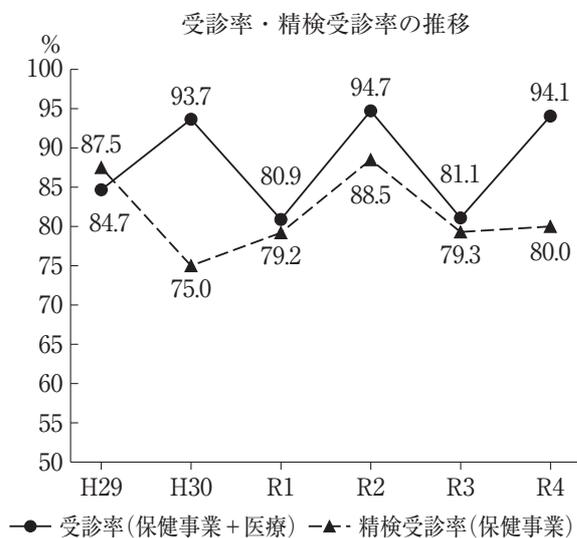
※2 平成30年度から「その他疾病等」には「子宮頸がんの疑いがある者又は未確定」及び「子宮頸がんおよびCIN(異形成等)以外の疾患であった者(転移性の子宮頸がんを含む)」を計上。

(3) 子宮体部がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区 分			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
			保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A		1,057		1,057	1,197		1,197	1,476		1,476
	受 診 者 数(人) B		874	21	895	964	157	1,121	1,031	163	1,194
	受 診 率(%) C = B / A		82.7		84.7	80.5		93.7	69.9		80.9
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D		845			919			1,000		
	要 精 検 者 数(人) E		16			32			24		
	判 定 不 能(人) F		13			13			7		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B		1.83			3.32			2.33		
	精 検 受 診 者 数(人) H		14			24			19		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E		87.5			75.0			79.2		
	子 宮 が ん の 者(人) J		3(1)	3(0)	6(1)	4(2)	0(1)	4(3)	3(2)	3(1)	6(3)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B		0.34	14.29	0.67	0.41	0.00	0.36	0.29	1.84	0.50
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E		18.8			12.5			12.5		
	確 定 が ん 数(人)		3	3	6	4	0	4	3	3	6
	確 定 が ん 率(%)				0.67			0.36			0.50

区 分			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
			保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A		1,231		1,231	1,502		1,502	1,227		1,227
	受 診 者 数(人) B		1,040	126	1,166	1,093	125	1,218	984	170	1,154
	受 診 率(%) C = B / A		84.5		94.7	72.8		81.1	80.2		94.1
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D		1,006			1,055			953		
	要 精 検 者 数(人) E		26			29			25		
	判 定 不 能(人) F		8			9			6		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B		2.50			2.65			2.54		
	精 検 受 診 者 数(人) H		23			23			20		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E		88.5			79.3			80.0		
	子 宮 が ん の 者(人) J		4(6)	0(0)	4(6)	6(3)	3(2)	9(5)	6(3)	1(1)	7(4)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B		0.38	0.00	0.34	0.55	2.40	0.74	0.61	0.59	0.61
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E		15.4			20.7			24.0		
	確 定 が ん 数(人)		4	0	4	6	3	9	6	3	9
	確 定 が ん 率(%)				0.34			0.74			0.78

- ※ 1 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
 ※ 2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
 ※ 3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
 ※ 4 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
 ※ 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 令和4年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	一次検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検 f	異常認めず	判定不能	
20～24歳	573	3	0.52	3	100.0	0	3	0	0.00
25～29歳	1,074	12	1.12	9	75.0	0	9	0	0.00
30～34歳	1,680	47	2.80	35	74.5	0	35	0	0.00
35～39歳	2,359	110	4.66	78	70.9	1	76	1	1.28
40～44歳	3,041	204	6.71	158	77.5	4	153	1	2.53
45～49歳	3,163	282	8.92	230	81.6	5	223	2	2.17
50～54歳	2,868	246	8.58	203	82.5	8	195	0	3.94
55～59歳	2,459	127	5.16	115	90.6	3	112	0	2.61
60～64歳	3,241	62	1.91	54	87.1	0	54	0	0.00
65～69歳	3,465	61	1.76	45	73.8	4	41	0	8.89
70～74歳	3,535	50	1.41	38	76.0	0	37	1	0.00
75～79歳	1,900	17	0.89	12	70.6	0	11	1	0.00
80歳以上	952	6	0.63	4	66.7	0	4	0	0.00
計	30,310	1,227	4.05	984	80.2	25	953	6	2.54

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮がん 発見率 (%) k = j / d	陽性反応 適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	3	75.0	1	0	0	2	1.27	50.0
45～49歳	3	60.0	2	1	0	0	0.00	0.0
50～54歳	7	87.5	2	0	2	3	1.48	37.5
55～59歳	3	100.0	1	0	1	1	0.87	33.3
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	3	75.0	2	1	0	0	0.00	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	20	80.0	9	2	3	6	0.61	24.0

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果（年齢階級別）

年 齢	体部がん検診受診者数	精密検査結果				子宮がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	
20～24歳	0	0	0	0	0	0.00
25～29歳	0	0	0	0	0	0.00
30～34歳	9	9	0	0	0	0.00
35～39歳	25	25	0	0	0	0.00
40～44歳	28	28	0	0	0	0.00
45～49歳	35	35	0	0	0	0.00
50～54歳	36	34	0	1	1	2.78
55～59歳	7	7	0	0	0	0.00
60～64歳	7	7	0	0	0	0.00
65～69歳	11	10	1	0	0	0.00
70～74歳	7	7	0	0	0	0.00
75～79歳	4	3	1	0	0	0.00
80歳以上	1	1	0	0	0	0.00
計	170	166	2	1	1	0.59

4) 令和4年度子宮体部がん検診受診状況(保健事業分)

市町村名	対象者数			受診者数			要精検者数						精密検査結果別人員						がん発見率(%) R=O/D	陽性反応適中度(%) S=O/H
	A	B	C	施設検診	計	受診率(%) E=D/A	車検診	施設検診	計	要精検率(%) I=H/D	精検受診者数	精検受診率(%) K=J/H	異常認めず	その他の疾病	がん又は子宮内膜増殖症	がん	子宮内膜増殖症	有所見者		
				D=B+C	H=F+G		F	G	H	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N=O+P	O	P	Q=M+N		
鳥取市	478	0	274	274	9	57.3	0	9	9	3.28	8	88.9	6	1	1	1	0	2	0.36	11.1
米子市	310	0	310	310	9	100.0	0	9	9	2.90	6	66.7	2	1	3	3	0	4	0.97	33.3
倉吉市	142	0	135	135	1	95.1	0	1	1	0.74	1	100.0	0	0	1	0	1	1	0.00	0.0
境港市	44	0	44	44	2	100.0	0	2	2	4.55	1	50.0	0	0	1	1	0	1	2.27	50.0
岩美町	21	0	14	14	0	66.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	35	0	22	22	0	62.9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	8	0	7	7	0	87.5	0	0	0	0.00	1	0.0	1	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	8	0	5	5	0	62.5	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	30	0	30	30	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	16	0	15	15	1	93.8	0	1	1	6.67	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	29	0	28	28	0	96.6	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	38	0	33	33	1	86.8	0	1	1	3.03	1	100.0	0	0	1	1	0	1	3.03	100.0
南部町	23	0	23	23	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	8	0	8	8	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	5	0	5	5	0	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	15	0	15	15	1	100.0	0	1	1	6.67	1	100.0	0	0	1	0	1	1	0.00	0.0
日南町	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	17	0	16	16	1	94.1	0	1	1	6.25	1	100.0	0	0	1	0	1	1	0.00	0.0
合計	1,227	0	984	984	25	80.2	0	25	25	2.54	20	80.0	9	2	9	6	3	11	0.61	24.0
東部	550	0	322	322	9	58.5	0	9	9	2.80	9	100.0	7	1	1	1	0	2	0.31	11.1
中部	255	0	241	241	3	94.5	0	3	3	1.24	2	66.7	0	0	2	1	1	2	0.41	33.3
西部	422	0	421	421	13	99.8	0	13	13	3.09	9	69.2	2	1	6	4	2	7	0.95	30.8

(5) 令和4年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
CIN1、2または腺異形成	11	8	59	63
CIN 3 または AIS	8	5	24	9
頸癌 I A 期	0	0	1	1
頸癌 I B 期以上	1	1	0	4
合計	20	14	84	77

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	令和3年度	令和4年度
内膜増殖症	3	7
体癌 I A 期	4	3
体癌 I B 期以上	5	1
合計	12	11

表3 発見子宮がん症例（I B 期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	1	0	1
3年以上の間隔	0	2	2
初回受診	0	3	3

表4 治療機関

	CIN3またはAIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	4	0	5	9
鳥取県立中央病院	3	0	0	3
鳥取県立厚生病院	4	1	0	5
彦名レディースライフクリニック	2	0	0	2
県外など	1	0	0	1
計	14	1	5	20

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

令和4年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）181,414人のうち、受診者数53,277人、受診率29.4%で令和3年度に比べ0.3ポイント減であった。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数63,987人、受診者数21,147人、受診率33.0%であった。

要精検者は1,801人、要精検率3.38%で前年度より0.26ポイント減少であった。精密検査受診者は1,584人、精検受診率88.0%で前年度より1.6ポイント減少であった。要精検率は3.0%以下を上回っているが、減少傾向にある。精検受診率は高く、原発性肺がん37人である。肺がん疑いは75人の計112人が発見された。肺がん発見率は0.069%で、国の指標（許容値）0.03%以上より高率であった。また、陽性反応の中度は2.1%で、令和3年度に比べがん発見率は0.024ポイント、陽性反応適中度は0.9ポイント増加した。

要精検率は許容値（3.0%以下）を上回り、がん発見率（許容値0.03%以上）、陽性反応適中度（許容値1.3%以上）は許容値の範囲に入っている。地区別では、西部地区の要精検率が高い。

施設検診受診者数の増加と車検診受診者数の減少傾向とが続いているが、施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診3.40%、車検診3.34%であり同程度であった。要精検率についての地域差も縮小してきている。

X線受診者総数53,277人のうち経年受診者は38,960人、経年受診率73.1%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,478人（14.0%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は1,739人で、X線検査受診者の3.3%、要精検者は1人、精検受診者1人で、がんが発見されている。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.064%、非経年受診者のがん発見率は0.084%であった。また、高危険群所属者7,478人のうち、がんが16人発見され、がん発見率0.214%、非高危険群所属者45,799人のうち、がんが21人発見され、がん発見率0.046%で、高危険群所属者の方が約4.67倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	17,508 (32.9%)	584	3.34	3.02	2.66	4.30
施 設 検 診 (病 院 ・ 診 療 所)	35,769 (67.1%)	1,217	3.40	3.56	2.78	3.43
計	53,277 (100%)	1,801	3.38	3.40	2.72	3.68

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	513	87.8	7	0.040	0.045	0.079	0.000
施 設 検 診	1,071	88.0	30	0.084	0.109	0.061	0.063
計	1,584	88.0	37	0.069	0.091	0.070	0.045

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	6,699	202	3.02	171	84.7	11	3	0.045
中 部	5,037	134	2.66	125	93.3	6	4	0.079
西 部	5,772	248	4.30	217	87.5	16	0	0.000
計	17,508	584	3.34	513	87.8	33	7	0.040

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,455	586	3.56	543	92.7	36	18	0.109
中 部	4,920	137	2.78	115	83.9	0	3	0.061
西 部	14,394	494	3.43	413	83.6	6	9	0.063
計	35,769	1,217	3.40	1,071	88.0	42	30	0.084

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (率)		
	男	女	計	男	女	計
R 2	20,342	29,391	49,733	12,759 (62.7%)	18,788 (63.9%)	31,547 (63.4%)
R 3	21,875	32,019	53,894	14,452 (66.1%)	20,968 (65.5%)	35,420 (65.7%)
R 4	21,897	31,380	53,277	15,937 (72.8%)	23,023 (73.4%)	38,960 (73.1%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
R 2	31,547	20	0.063	18,186	12	0.066	1.04
R 3	35,420	14	0.040	18,474	10	0.054	1.37
R 4	38,960	25	0.064	14,317	12	0.084	1.31

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（率）		
	男	女	計	男	女	計
R 2	20,342	29,391	49,733	5,658 (27.8%)	562 (1.9%)	6,220 (12.5%)
R 3	21,875	32,019	53,894	6,874 (31.4%)	364 (1.1%)	7,238 (13.4%)
R 4	21,897	31,380	53,277	7,109 (32.5%)	369 (1.2%)	7,478 (14.0%)

(2) がん発見率の推移

年度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
R 2	6,220	10	0.161	43,513	22	0.051	3.18
R 3	7,238	10	0.138	46,656	14	0.030	4.60
R 4	7,478	16	0.214	45,799	21	0.046	4.67

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
R 2	6,220	1,890	5	0.26	4	2	0.106
R 3	7,238	2,079	2	0.10	2	0	0.000
R 4	7,478	1,739	1	0.06	1	1	0.058

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
R 2	32	30	1	1
R 3	24	24	0	0
R 4	37	36	0	1

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年度から令和4年度までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,776例、内訳は原発性肺癌1,612例、転移性肺腫瘍164例であった。

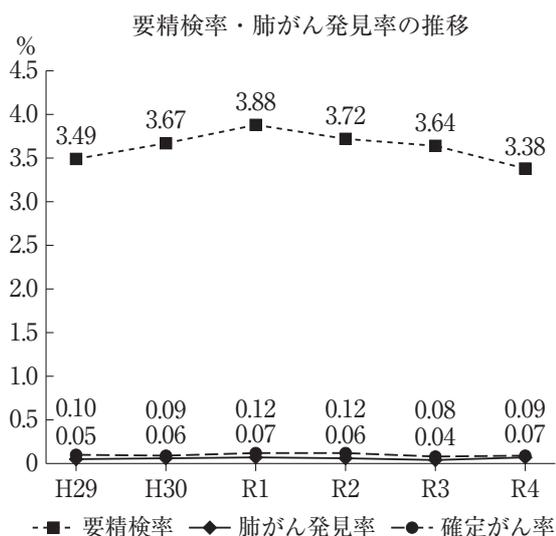
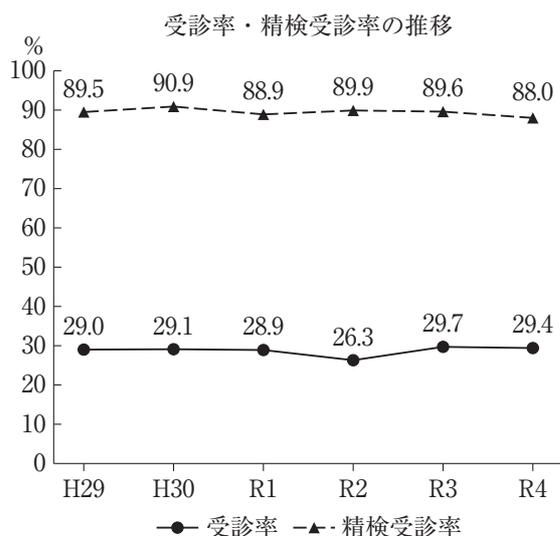
令和4年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺癌48例、転移性肺腫瘍2例、合計50例の肺がん確定診断を得た。
- (2) 発見された原発性肺癌の48例すべて（100%）が胸部X線で発見され、喀痰細胞診で発見された肺がんはなかった。
- (3) 対人口10万人あたりの原発性肺癌発見者は90人であった。
- (4) 原発性肺癌の平均年齢は72.5歳、男性27例、女性は21例、臨床病期はⅠA期24例（50.0%）、Ⅰ期29例（60.4%）であった。組織型は、腺癌は35例（72.9%）であった。
- (5) 手術症例の割合は25例（52.1%）、術後病期Ⅰ期の肺癌は21例（84.0%）であった。腺癌が22例（88.0%）で圧倒的に多かった。
- (6) 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均30.9mm（前年度28.0mm）であった。最高は80mmだった。
- (7) 転移性肺腫瘍は2例あり、前立腺癌1例、肺癌（再発）1例であった。
- (8) 原発性肺癌確定者の施設検診と車検診の比較では、手術なしが施設検診では多かった。

(1) 肺がん検診の受診者数、受診率等の推移（最終報告）

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	189,132	189,132	189,132	189,132	181,414	181,414
	受 診 者 数(人) B	54,776	55,050	54,671	49,733	53,894	53,277
	受 診 率(%) C = B/A	29.0	29.1	28.9	26.3	29.7	29.4
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	52,867	53,032	52,549	47,886	51,933	51,476
	要 精 検 者 数(人) E	1,909	2,023	2,123	1,850	1,963	1,801
	要 精 検 率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	3.49	3.67	3.88	3.72	3.64	3.38
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,709	1,839	1,887	1,664	1,759	1,584
	精 検 受 診 率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	89.5	90.9	88.9	89.9	89.6	88.0
精 密 検 査 結 果	肺 がん の 者(人) I	28(94)	31(115)	46(104)	42(68)	28(90)	42(75)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	27	31	38	32	24	37
	肺 がん 発 見 率(%) K = J/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.05	0.06	0.07	0.06	0.04	0.07
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	1.4	1.5	1.8	1.7	1.2	2.1
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) M	53	52	63	59	41	50
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	50	49	59	55	38	48
	確 定 がん 率(%) O = N/B	0.10	0.09	0.12	0.12	0.08	0.09

- * 1 精密検査結果中の（ ）内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数（E）、精検受診者数（G）、肺がんの者（I）、確定がん数（L）については、E判定者数を計上



(2) 令和4年度肺がん検診結果

1) 一次検診（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査									エックス線フィルム読影結果						
			一次検診 受診者数		受診率 (%)			経年受診者数 再掲※		経年受診者 割合 (%)		要精検者数		要精検率 (%)				
	a		b		c = b/a			d		e = d/b			f		g = f/b			
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
40～44歳	2,972	3,512	635	1,179	21.4	33.6	28.0	255	448	40.2	38.0	14	16	2.20	1.36	1.65		
45～49歳	3,210	3,799	685	1,194	21.3	31.4	26.8	398	685	58.1	57.4	17	15	2.48	1.26	1.70		
50～54歳	2,743	3,589	718	1,277	26.2	35.6	31.5	425	739	59.2	57.9	13	27	1.81	2.11	2.01		
55～59歳	2,891	4,281	714	1,462	24.7	34.2	30.3	432	928	60.5	63.5	18	26	2.52	1.78	2.02		
60～64歳	5,176	7,615	1,563	2,880	30.2	37.8	34.7	937	1,914	59.9	66.5	60	72	3.84	2.50	2.97		
65～69歳	10,744	13,455	3,743	5,097	34.8	37.9	36.5	2,624	3,822	70.1	75.0	120	142	3.21	2.79	2.96		
70～74歳	14,256	17,509	5,852	7,245	41.0	41.4	41.2	4,559	5,710	77.9	78.8	230	251	3.93	3.46	3.67		
75～79歳	11,216	15,094	3,994	5,178	35.6	34.3	34.9	3,182	4,231	79.7	81.7	182	145	4.56	2.80	3.57		
80歳以上	19,085	40,267	3,993	5,868	20.9	14.6	16.6	3,125	4,546	78.3	77.5	198	255	4.96	4.35	4.59		
計	72,293	109,121	21,897	31,380	30.3	28.8	29.4	15,937	23,023	72.8	73.4	852	949	3.89	3.02	3.38		
合計	181,414		53,277		29.4			38,960		73.1		1,801		3.38				

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中高危険群 所属者※		喀痰容器 提出者数		喀痰細胞診結果						X線・ 喀痰細胞診 ともに 要精検		一次検診総合結果						
					要精検 者 数		精 検 不 要		要精検率 (%)				要精検者数		要精検率 (%)				
	h	i			j = i/h	k	l = f + i - k	m = l/b											
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
40～44歳	0	1	1	0	0	0	1	0	0.00	0.00	0	0	14	16	2.20	1.36	1.65		
45～49歳	0	1	1	0	0	0	1	0	0.00	0.00	0	0	17	15	2.48	1.26	1.70		
50～54歳	161	38	41	6	0	0	41	6	0.00	0.00	0	0	13	27	1.81	2.11	2.01		
55～59歳	200	26	53	10	0	0	53	10	0.00	0.00	0	0	18	26	2.52	1.78	2.02		
60～64歳	499	57	130	13	1	0	129	13	0.77	0.00	1	0	60	72	3.84	2.50	2.97		
65～69歳	1,325	71	359	13	0	0	359	13	0.00	0.00	0	0	120	142	3.21	2.79	2.96		
70～74歳	2,348	89	570	15	0	0	570	15	0.00	0.00	0	0	230	251	3.93	3.46	3.67		
75～79歳	1,508	57	309	16	0	0	309	16	0.00	0.00	0	0	182	145	4.56	2.80	3.57		
80歳以上	1,068	29	192	10	0	0	192	10	0.00	0.00	0	0	198	255	4.96	4.35	4.59		
計	7,109	369	1,656	83	1	0	1,655	83	0.06	0.00	1	0	852	949	3.89	3.02	3.38		
合計	7,478		1,739		1		1,738		0.06		1		1,801		3.38				

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当するもの
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検査者数 (再掲)		精密検査受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度 (%)		
	n		o		p = o / n			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		r = q / b			s = q / n		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	14	16	11	15	78.6	93.8	86.7	4	12	6	3	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	17	15	15	15	88.2	100.0	93.8	12	11	3	3	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	13	27	10	24	76.9	88.9	85.0	6	17	3	7	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	18	26	16	25	88.9	96.2	93.2	9	10	7	14	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	60	72	51	59	85.0	81.9	83.3	24	24	23	32	0	2	4	1	0.256	0.035	0.113	6.7	1.4	3.8
65～69歳	120	142	108	128	90.0	90.1	90.1	43	58	59	58	2	7	4	5	0.107	0.098	0.102	3.3	3.5	3.4
70～74歳	230	251	195	236	84.8	94.0	89.6	71	97	103	124	12	10	9	5	0.154	0.069	0.107	3.9	2.0	2.9
75～79歳	182	145	157	135	86.3	93.1	89.3	67	57	80	70	8	7	2	1	0.050	0.019	0.033	1.1	0.7	0.9
80歳以上	198	255	165	219	83.3	85.9	84.8	46	95	104	110	13	10	2	4	0.050	0.068	0.061	1.0	1.6	1.3
計	852	949	728	856	85.4	90.2	88.0	282	381	388	421	37	38	21	16	0.096	0.051	0.069	2.5	1.7	2.1
合計	1,801		1,584		88.0			663		809		75		37					2.1		
X線のみ要精検	1,800		1,583		87.9			663		809		75		36		/			2.0		
略痰のみ要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		
X線+略痰要精検	1		1		100.0			0		0		0		1					100.0		

3) 検診機関別

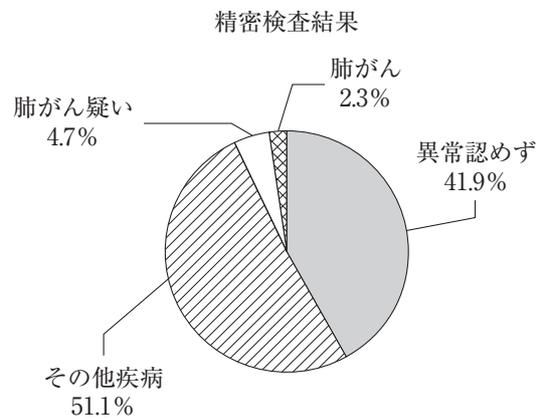
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検査者数 b'		異常認めず		要精検査率 (%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	6,419	10,160	4,937	7,776	237	304	6,182	9,856	3.69	2.99	3.26	1,970	95
中国労働衛生協会	328	601	251	456	21	22	307	579	6.40	3.66	4.63	41	5
病 院	4,411	5,524	3,237	4,002	168	171	4,243	5,353	3.81	3.10	3.41	1,412	70
診 療 所	10,739	15,095	7,512	10,789	426	452	10,313	14,643	3.97	2.99	3.40	3,686	199
計	21,897	31,380	15,937	23,023	852	949	21,045	30,431	3.89	3.02	3.38	7,109	369
合 計	53,277		38,960		1,801		51,476		3.38			7,478	

一次検診機関	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とも必要精検(C)		一次検診総合結果				
			要精検者数		精検不要		要精検率(%)				要精検者数		要精検率(%)		
	d'		e'		f' = e'/d'		g'		h' = b' + e' - g'		I' = h'/a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	292	15	0	0	292	15	0.00	0.00	0	0	237	304	3.69	2.99	3.26
中国労働衛生協会	30	0	0	0	30	0	0.00	0.00	0	0	21	22	6.40	3.66	4.63
病院	389	17	0	0	389	17	0.00	0.00	0	0	168	171	3.81	3.10	3.41
診療所	945	51	1	0	944	51	0.11	0.00	1	0	426	452	3.97	2.99	3.40
計	1,656	83	1	0	1,655	83	0.06	0.00	1	0	852	949	3.89	3.02	3.38
合計	1,739		1		1,738		0.06		1		1,801		3.38		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数		精密検査受診率(%)			精密検査結果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)					
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん										
	j'		k' = j'/h'			男		女		男		女		男		女		m' = l'/a'			n' = l'/h'	
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計			
保健事業団	206	271	86.9	89.1	88.2	79	118	107	133	17	16	3	4	0.047	0.039	0.042	1.3	1.3	1.3			
中国労働衛生協会	20	16	95.2	72.7	83.7	6	4	14	12	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0			
病院	136	157	81.0	91.8	86.4	56	66	70	82	4	5	6	4	0.136	0.072	0.101	3.6	2.3	2.9			
診療所	366	412	85.9	91.2	88.6	141	193	197	194	16	17	12	8	0.112	0.053	0.077	2.8	1.8	2.3			
計	728	856	85.4	90.2	88.0	282	381	388	421	37	38	21	16	0.096	0.051	0.069	2.5	1.7	2.1			
合計	1,584		88.0			663		809		75		37		0.069			2.1					



4) 令和4年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん発見率 (%) Q=O/D	陽性反応適中率 (%) R=O/H			
	対象者数	車検診施設検診	計	受診率 (%) E=D/A	車検診施設検診	計	要精検率 (%) I=H/D	精検受診者数	精検受診率 (%) K=J/H	異常認めず	その他の病	がん疑い			肺がん	有所見者	
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H
鳥取市	57,633	3,471	13,847	17,318	30.0	107	479	586	3.38	92.3	246	240	38	17	295	0.098	2.9
米子市	43,796	989	10,368	11,357	25.9	33	372	405	3.57	86.7	156	179	9	7	195	0.062	1.7
倉吉市	16,163	584	2,792	3,376	20.9	26	84	110	3.26	90.0	38	56	3	2	61	0.059	1.8
境港市	10,796	755	2,376	3,131	29.0	22	73	95	3.03	77.9	18	53	2	1	56	0.032	1.1
岩美町	4,245	965	444	1,409	33.2	38	15	53	3.76	90.6	14	28	5	1	34	0.071	1.9
八頭町	5,674	1,751	965	2,716	47.9	37	35	72	2.65	76.4	22	29	2	2	33	0.074	2.8
若桜町	1,336	133	635	768	57.5	5	29	34	4.43	85.3	12	16	1	0	17	0.000	0.0
智頭町	2,723	379	564	943	34.6	15	28	43	4.56	95.3	10	29	1	1	31	0.106	2.3
湯梨浜町	5,319	1,138	837	1,975	37.1	22	15	37	1.87	86.5	9	21	1	1	23	0.051	2.7
三朝町	2,336	831	197	1,028	44.0	24	3	27	2.63	100.0	16	8	2	1	11	0.097	3.7
北栄町	5,250	1,239	692	1,931	36.8	32	17	49	2.54	87.8	21	21	0	1	22	0.052	2.0
琴浦町	6,243	1,245	402	1,647	26.4	30	18	48	2.91	81.3	16	21	0	2	23	0.121	4.2
南部町	3,722	268	1,197	1,465	39.4	13	27	40	2.73	77.5	14	16	0	1	17	0.068	2.5
伯耆町	4,091	947	453	1,400	34.2	35	22	57	4.07	75.4	19	22	2	0	24	0.000	0.0
日吉津村	981	243	0	243	24.8	19	0	19	7.82	84.2	7	7	2	0	9	0.000	0.0
大山町	6,342	1,347	0	1,347	21.2	57	0	57	4.23	98.2	21	30	5	0	35	0.000	0.0
日南町	2,198	446	0	446	20.3	26	0	26	5.83	84.6	12	8	2	0	10	0.000	0.0
日野町	1,340	204	0	204	15.2	7	0	7	3.43	85.7	3	3	0	0	3	0.000	0.0
江府町	1,226	573	0	573	46.7	36	0	36	6.28	86.1	9	22	0	0	22	0.000	0.0
合計	181,414	17,508	35,769	53,277	29.4	584	1,217	1,801	3.38	88.0	663	809	75	37	921	0.069	2.1
東部	71,611	6,699	16,455	23,154	32.3	202	586	788	3.40	90.6	304	342	47	21	410	0.091	2.7
中部	35,311	5,037	4,920	9,957	28.2	134	137	271	2.72	88.6	100	127	6	7	140	0.070	2.6
西部	74,492	5,772	14,394	20,166	27.1	248	494	742	3.68	84.9	259	340	22	9	371	0.045	1.2

(3) 令和4年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,612、転移性164） 1,776例
 他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総計 1,788例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	昭和 62年	昭和 63年	平成 元年	平成 2年	平成 3年	平成 4年	平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年	平成 10年	平成 11年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53	40	41
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2	7	7
合計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55	47	48

	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年
原発性肺癌	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65	55	49
転移性肺腫瘍	6	7	6	3	2	5	6	7	3	8	4	6	5
合計	48	37	54	68	52	62	68	55	55	49	69	61	54

	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	合計
原発性肺癌	58	74	47	46	50	49	59	55	38	48	1,612
転移性肺腫瘍	4	7	1	4	3	3	4	4	3	2	164
合計	62	81	48	50	53	52	63	59	41	50	1,776

2) 原発性肺がん診断方法

		〔令和4年度集計〕				
胸 X 間 接	Dのみ	245例	1,503例(93.2%)	Dのみ 0例	48例(100.0%)	
	Eのみ	1,258例				Eのみ 48例
細 胞 診	Dのみ	23例	58例(3.6%)	Dのみ 0例	0例(0.0%)	
	Eのみ	35例				Eのみ 0例
胸X線間接と細胞診	D + D	11例	48例(3.0%)	D + D 0例	0例(0.0%)	
	D + E	9例				D + E 0例
	E + D	6例				E + D 0例
	E + E	22例				E + E 0例
	不明	3例	3例(0.2%)	不明 0例	0例(0.0%)	
計		1,612例		計 48例		

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 元	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(73.7%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
H30	55,050	2,021(3.67%)	1,839(91.0%)	49	89
R 元	54,671	2,123(3.88%)	1,887(88.9%)	59	106
R 2	49,733	1,850(3.72%)	1,666(90.1%)	55	111
R 3	53,894	1,963(3.64%)	1,759(89.6%)	38	71
R 4	53,277	1,801(3.38%)	1,584(88.0%)	48	90
計	2,011,528	42,323(2.10%)	37,044(87.5%)	1,612	80

4) 原発性肺癌 (1,612例)

(1) 年齢・性別

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	93	5.8%
60～69歳	480	29.8%
70～79歳	742	46.0%
80～	297	18.4%
計	1,612	100%

平均年齢=72.3
男：女=960例：651例（不明：1例）

〔R 4年度集計〕

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	1	2.1%
60～69歳	14	29.2%
70～79歳	25	52.1%
80～	8	16.7%
計	48	100%

平均年齢=72.5
男：女=27例：21例（不明：0例）

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類 (第7版+8版)

臨床病期	
Occult	2
0	2
I A	685(42.5%)
I B	243
II A	60
II B	84
III A	178
III B	93
III C	5
IV	222
不明	38
計	1,612

〔R4年度集計〕(第8版)

臨床病期	(%)
Occult	0
0	0
I A	24(50.0%)
I B	5
II A	2
II B	2
III A	2
III B	0
III C	2
IV	10
不明	1
計	48

29(60.4%)
I期肺癌

多発癌は病期の
進んだ方を採用

I Aの内訳……臨床病期 I A1: 7例、I A2: 13例、I A3: 4例

b. 組織型

組織型	
扁平上皮癌	337
腺癌	1,026(63.5%)
大細胞癌	21
小細胞癌	95
腺扁平上皮癌	15
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	119
計	1,615*

〔R4年度集計〕

組織型	
扁平上皮癌	7
腺癌	35(72.9%)
大細胞癌	0
小細胞癌	2
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	3
計	48

扁平上皮癌と腺癌混在
は主たる病変を採用

* 3例: 扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌、腺癌と腺癌(**)の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(1,006例、手術率: 62.4%)

〔R4年度集計〕

a. 臨床病期、術後病期

原発性肺癌の手術症例 (25例、手術率: 52.1%)

臨床病期 (例)		術後病期 (例)	
Occult	2	Occult	2
0	0(0.0%)	0	2(0.2%)
I A	605(60.1%)	I A	519(51.6%)
I B	201	I B	222
II A	37	II A	46
II B	54	II B	67
III A	82	III A	97
III B	15	III B	24
III C	0	III C	0
IV	9	IV	22
不明	1	不明	5
計	1,006	計	1,006

臨床病期 (例)		術後病期 (例)	
Occult	0	Occult	0
0	0	0	0
I A*	19(76.0%)	I A**	18(72.0%)
I B	4	I B	3
II A	1	II A	0
II B	1	II B	2
III A	0	III A	2
III B	0	III B	0
III C	0	III C	0
IV	0	IV	0
不明	0	不明	0
計	25	計	25

21
(84.0%)

I Aの内訳……臨床病期 I A1: 6例、I A2: 10例、I A3: 3例

**術後病期 I A1: 7例、I A2: 8例、I A3: 3例

b. 組織型分類

〔R 4 年度集計〕

組織型	(例)
扁平上皮癌	184
腺癌	759(75.4%)
大細胞癌	16
小細胞癌	11
腺扁平上皮癌	16
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	18
計	1,006

組織型	(例)
扁平上皮癌	1
腺癌	22(88.0%)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	1
計	25

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2	2
11~20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.0)	11	26(41.9)	14(29.2)	21(40.4)	10	13
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.1)	15	18	6	13(31.7)	26(40.0)
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8	15
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6	6
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2	2x
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0	1
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm	29.4mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	71mm	68mm	80mm

腫瘍径 (mm)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)	H30年度 (%)	R元年度 (%)	R2年度 (%)	R3年度 (%)	R4年度 (%)
0~10	1	4	3	3	0	1	8	1	1	9	1(2.6)	4(8.3)
11~20	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)	14(28.6)	13	14(25.5)	10(26.3)	12(25.0)
21~30	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15	15	16(27.1)	11	14(36.8)	13(27.1)
31~40	6	8	8	7	14	13	2	5	16(27.1)	6	4(10.5)	8(16.7)
41~50	4	6	5	6	6	5	2	7	8	6	4(10.5)	4(8.3)
51~	11	2	6	5	3	2	8	5	2	8	2(5.3)	6(12.5)
不明	1	2	0	4	0	1	0	2	3	1	3(7.9)	1(2.1)
計	55	49	58	74	47	46	50	49	59	55	38	48
平均	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7mm	30.4mm	28.6mm	32.2mm	32.1mm	29.5mm	27.7mm	28.0mm	30.9mm
最高	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm	56mm	83mm	71mm	68mm	80mm	60mm	80mm

5) 転移性肺腫瘍 (164例)

大腸癌：34例 乳癌：21例 前立腺癌：16例 甲状腺癌：13例 腎臓癌：13例
 肝臓癌：9例 胃癌：8例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管癌：4例 胆のう癌：4例 膀胱癌：4例 肺癌：3例 食道癌：2例
 卵巣癌：2例 子宮肉腫：2例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 腹膜癌：1例 不明：9例

〔R 4 年度集計〕 (2例)

前立腺癌：1例、肺癌：1例

6) 令和4年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	17,508	35,769
要精検数	584 (3.3) 東部：202 (3.02) 中部：134 (2.66) 西部：248 (4.30)	1,217 (3.4) 東部：586 (3.56) 中部：137 (2.78) 西部：494 (3.43)
確定者数	13名 (0.074) (東：6、中：4、西：3)	35名 (0.098) (東：21、中：3、西：11)
発見方法	E1：12、E2：1	E1：16、E2：4、E：15
年 齢	72.7歳	72.5歳
性 差	男性：7名 女性：6名	男性：20名 女性：15名
臨床病期	0 0名 I A 5名、I B 0名、 II A 2名、II B 0名、 III C 1名 IV 4名 不明1名	0 0名 I A 19名、I B 5名、 II A 0名、II B 2名、 III A 2名、III C 1名 IV 6名 不明0名
組 織 型	扁平上皮癌1名、腺癌9名 不明 3名	扁平上皮癌6名、腺癌26名、 腺扁平上皮癌1名 小細胞癌2名
手 術	あり5名、なし8名	あり20名、なし15名
腫 瘍 径	3.07cm	3.11cm

4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

令和4年度対象者数109,121人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数16,933人、受診率15.5%で、令和3年度より0.7ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数36,251人、受診者数11,758人、受診率32.4%であった。

要精検者数1,014人、要精検率5.99%で前年度より0.29ポイント減少した。精検受診者数966人、精検受診率は95.3%で、令和3年度より0.5ポイント増加した。

精検の結果、乳がん71人、がん発見率（がん/受診者数）0.42%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）7.0%であった。令和3年度に比べ、がん発見率は0.02ポイント、陽性反応適中度は0.04ポイント減少した。

要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度において国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

要精検率は、40歳代が高く、がん発見率は70歳以上が高かった。

〈検診機関別受診結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）
車 検 診 （保健事業団・中国労働衛生協会）	7,224 （42.7%）	423	5.86
施 設 検 診 （病院・診療所）	9,709 （57.3%）	591	6.09
計	16,933 （100%）	1,014	5.99

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 （%）	が ん	がん発見率 （%）
車 検 診	390	92.2	30	0.42
施 設 検 診	576	97.5	41	0.42
計	966	95.3	71	0.42

〈圏域別結果〉

区 分	対象者数	受診者数	受診率 （%）	要精検率 （%）	精 検 受診者数	精検受診率 （%）	が ん	がん発見率 （%）
東 部	42,827	7,207	16.83	4.40	303	95.6	14	0.19
中 部	20,991	3,019	14.38	5.33	153	95.0	12	0.40
西 部	45,303	6,707	14.80	7.99	510	95.1	45	0.67
計	109,121	16,933	15.52	5.99	966	95.3	71	0.42

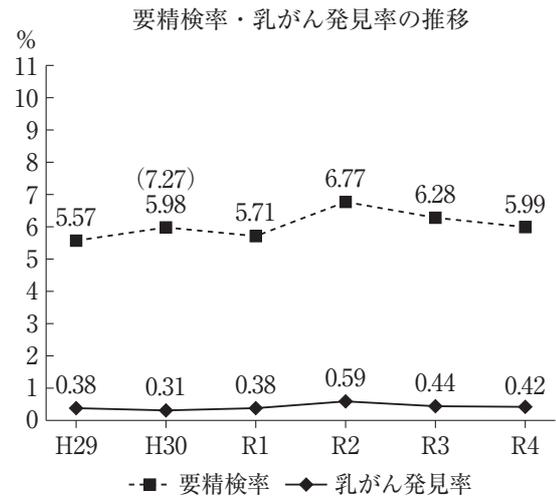
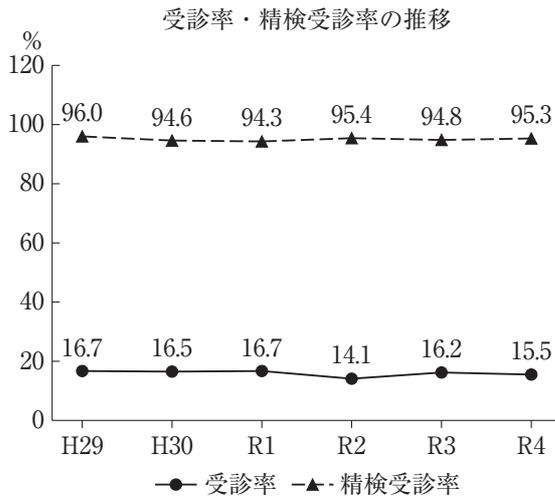
2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

令和4年度の確定乳がんは72例であった。令和2年度の96例、令和3年の80例に比較して減少していた。地域ごとの患者数は境港市の発見例が非常に増加していた。確定乳癌の平均年齢は64.8歳で令和3年度とほぼ同様であった。患者数では70歳代の患者が最も多かった。乳癌罹患率は全国的にも45歳から急上昇し、70～74歳のピークとなっており、本県のデータもそれを裏付けていた。早期癌は63.9%を占め、前年度の65.0%とほぼ同様であった。50歳代にStageⅡ以上の症例が多かった。術式は乳房部分切除（乳房温存）が33%であり、近年この比率が続いている。治療法の多様性があり、CDK4/6阻害剤の使用症例も認めた。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一次検診	対象者数(人) A	115,469	115,469	115,469	115,469	109,121	109,121
	受診者数(人) B	19,317	19,075	19,228	16,249	17,631	16,933
	受診率(%) C = B/A	32.3	31.9	33.1	29.8	—	—
一次検診結果	異常認めず(人) D	18,242	17,935	18,131	15,149	16,523	15,919
	要精検者数(人) E	1,075	1,140	1,097	1,100	1,108	1,014
	要精検率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	5.57	5.98	5.71	6.77	6.28	5.99
精密検査	精検受診者数(人) G	1,032	1,078	1,034	1,049	1,050	966
	精検受診率(%) H = G/E	96.0	94.6	94.3	95.4	94.8	95.3
精密検査結果	乳がんの者(人) I	74(3)	60(1)	73(0)	96(0)	78(6)	71(3)
	乳がん発見率(%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.38	0.31	0.38	0.59	0.44	0.42
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	6.88	5.26	6.65	8.73	7.04	7.00
確定調査結果	確定がん数(人) L	72	60	73	96	78	72
	確定がん率(%) M = L/B	0.37	0.31	0.37	0.59	0.44	0.43

- * 1 精密検査結果欄の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数について
・確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 平成30年度報告(平成29年度実績)から、検診方法がマンモグラフィのみとなった。



(2) 令和4年度乳がん検診(マンモグラフィのみの受診者)

1) 一次検診結果(年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40~44歳	3,512	1,847	52.6	174	1,673	9.42
45~49歳	3,799	1,654	43.5	162	1,492	9.79
50~54歳	3,589	1,949	54.3	129	1,820	6.62
55~59歳	4,281	1,474	34.4	81	1,393	5.50
60~64歳	7,615	2,507	32.9	126	2,381	5.03
65~69歳	13,455	2,327	17.3	126	2,201	5.41
70~74歳	17,509	2,849	16.3	112	2,737	3.93
75~79歳	15,094	1,426	9.4	71	1,355	4.98
80歳以上	40,267	900	2.2	33	867	3.67
計	109,121	16,933	15.5	1,014	15,919	5.99

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f	精密検査 受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	163	93.7	56	104	0	3	0.16	1.72
45～49歳	155	95.7	61	89	0	5	0.30	3.09
50～54歳	122	94.6	43	68	1	10	0.51	7.75
55～59歳	78	96.3	27	49	0	2	0.14	2.47
60～64歳	120	95.2	54	55	0	11	0.44	8.73
65～69歳	122	96.8	67	45	0	10	0.43	7.94
70～74歳	107	95.5	47	44	1	15	0.53	13.39
75～79歳	68	95.8	34	26	0	8	0.56	11.27
80歳以上	31	93.9	10	13	1	7	0.78	21.21
計	966	95.3	399	493	3	71	0.42	7.00

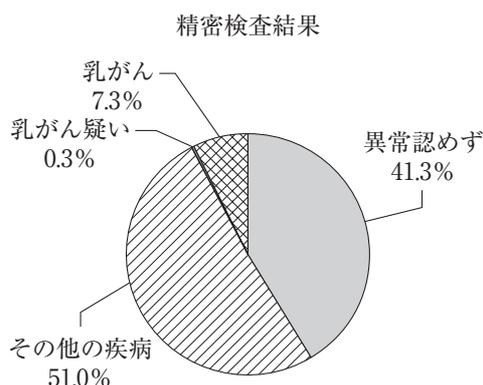
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検診機関	一次検診 受診者数 a'	一次検診結果		要精検率(%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
保 健 事 業 団	6,720	394	6,326	5.86
病 院	7,842	418	7,424	5.33
診 療 所	1,867	173	1,694	9.27
中国労働衛生協会	296	22	274	7.43
	208	7	201	3.37
計	16,933	1,014	15,919	5.99

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査 受診者数 d'	精密検査 受診率 (%) f' = d' / b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) h' = g' / a'	陽性反応 適中度 (%) I' = h' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん g'		
保 健 事 業 団	361	91.62	155	176	1	29	0.43	7.36
病 院	406	97.13	176	196	0	34	0.43	8.13
診 療 所	170	98.27	54	107	2	7	0.37	4.05
中国労働衛生協会	22	100.0	8	14	0	0	0.00	0.00
	7	100.0	6	0	0	1	0.48	14.29
計	966	95.3	399	493	3	71	0.42	7.00



4) 令和4年度乳がん検診受診状況(マンモグラフィーのみの受診者)

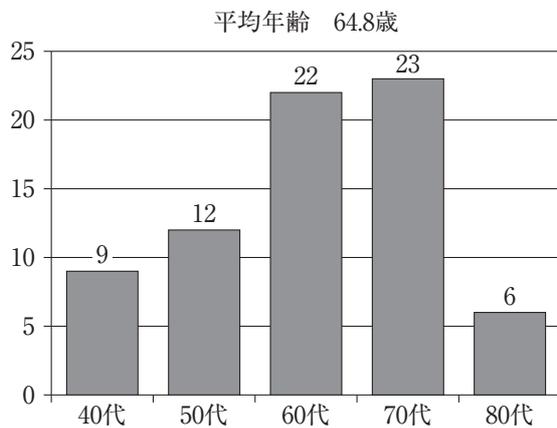
市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん発見率(%) Q = O / D	陽性反応 適中度(%) R = O / H		
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	車検診 F	施設検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H / D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K = J / H	異常 認めず L	その他 の疾病 M	がん 疑い N			がん O	有所見者 P = M + N + O
鳥取市	34,640	2,417	3,167	5,584	16.1	118	132	250	4.48	240	96.0	99	128	0	13	141	0.233	5.2
米子市	26,929	464	3,076	3,540	13.1	43	266	309	8.73	302	97.7	94	187	1	20	208	0.565	6.5
倉吉市	9,799	419	588	1,007	10.3	25	34	59	5.86	56	94.9	23	27	0	6	33	0.596	10.2
境港市	6,622	353	920	1,273	19.2	28	57	85	6.68	74	87.1	33	28	1	12	41	0.943	14.1
岩美町	2,446	153	304	457	18.7	7	12	19	4.16	18	94.7	8	10	0	0	10	0.000	0.0
八頭町	3,339	583	175	758	22.7	22	6	28	3.69	26	92.9	17	9	0	0	9	0.000	0.0
若桜町	785	122	15	137	17.5	10	1	11	8.03	11	100.0	3	7	0	1	8	0.730	9.1
智頭町	1,617	105	166	271	16.8	4	5	9	3.32	8	88.9	3	5	0	0	5	0.000	0.0
湯梨浜町	3,083	471	155	626	20.3	18	5	23	3.67	22	95.7	11	10	1	0	11	0.000	0.0
三朝町	1,393	208	43	251	18.0	7	2	9	3.59	9	100.0	8	0	0	1	1	0.398	11.1
北栄町	3,070	437	127	564	18.4	24	9	33	5.85	30	90.9	16	11	0	3	14	0.532	9.1
琴浦町	3,646	467	104	571	15.7	30	7	37	6.48	36	97.3	16	18	0	2	20	0.350	5.4
南部町	2,199	129	284	413	18.8	11	22	33	7.99	31	93.9	17	11	0	3	14	0.726	9.1
伯耆町	2,425	198	201	399	16.5	21	6	27	6.77	26	96.3	13	9	0	4	13	1.003	14.8
日吉津村	628	78	67	145	23.1	3	5	8	5.52	8	100.0	5	3	0	0	3	0.000	0.0
大山町	3,632	372	147	519	14.3	29	15	44	8.48	42	95.5	16	22	0	4	26	0.771	9.1
日南町	1,288	129	45	174	13.5	12	0	12	6.90	10	83.3	7	2	0	1	3	0.575	8.3
日野町	828	119	4	123	14.9	11	0	11	8.94	10	90.9	7	2	0	1	3	0.813	9.1
江府町	752	0	121	121	16.1	0	7	7	5.79	7	100.0	3	4	0	0	4	0.000	0.0
合計	109,121	7,224	9,709	16,933	15.5	423	591	1,014	5.99	966	95.3	399	493	3	71	567	0.419	7.0
東部	42,827	3,380	3,827	7,207	16.8	161	156	317	4.40	303	95.6	130	159	0	14	173	0.194	4.4
中部	20,991	2,002	1,017	3,019	14.4	104	57	161	5.33	153	95.0	74	66	1	12	79	0.397	7.5
西部	45,303	1,842	4,865	6,707	14.8	158	378	536	7.99	510	95.1	195	268	2	45	315	0.671	8.4

(3) 令和4年度検診発見乳がん追跡調査結果

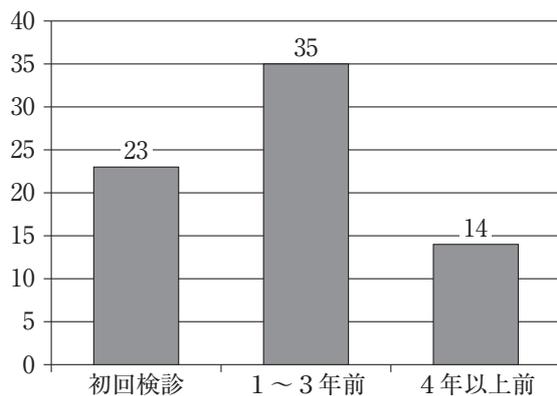
1) 確定乳癌72例

東部地区(14例)：鳥取市13例 若桜町1例
中部地区(12例)：倉吉市6例 北栄町3例 琴浦町2例 三朝町1例
西部地区(46例)：米子市20例 境港市13例 大山町4例 南部町3例
伯耆町4例 日南町1例 日野町1例

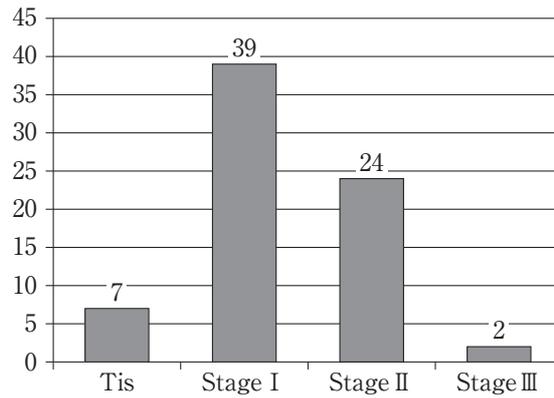
2) 年齢構成



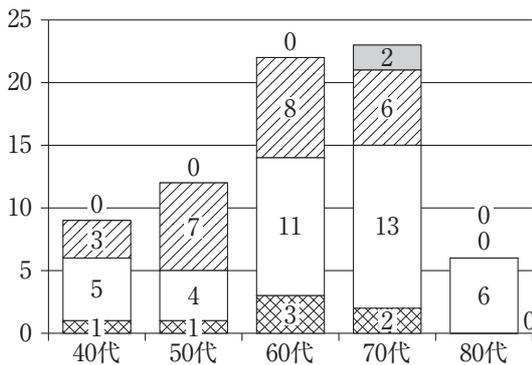
3) 検診歴



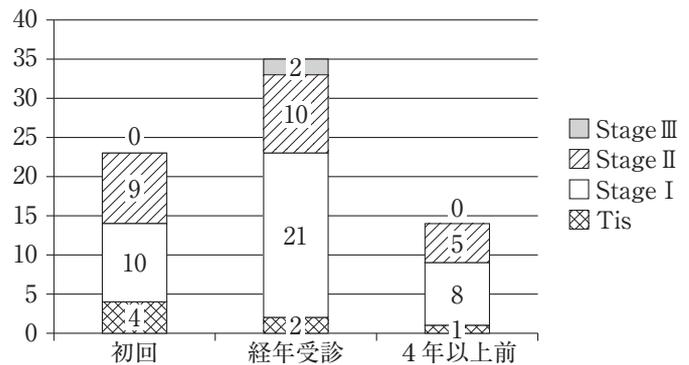
4) 病期



年代と病期

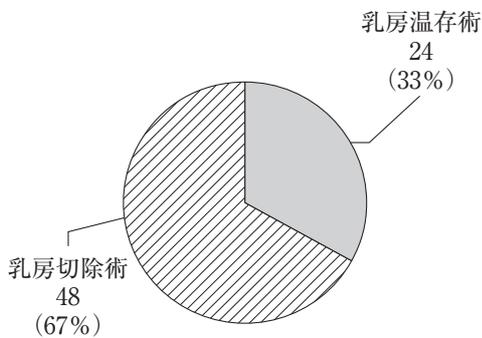


受診歴と病期

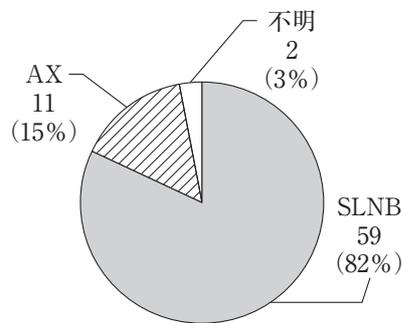


5) 治療

手術



腋窩郭清



その他の治療

内分泌療法	55
CDK4/6阻害剤	2
化学療法	24
抗HER2薬	7
放射線療法	27

(重複あり)

まとめ

1. 令和4年度の乳癌確定症例は現時点で72例であった。令和2年の96例、3年の80例に比較して減少していた。地域ごとの患者数は境港市の発見症例が非常に増加していた。
2. 発見癌患者の平均年齢は64.8歳で前年度(64.8歳)と同様であった。前年度同様、70代が最も患者数の多い年代であった。現在、国内の罹患率のピークが2峰性となっており、本県でも同様の傾向があるものと思われる。
3. 検診受診歴に関しても前年度と同様で、経年受診者が多かった。受診歴と早期癌の割合に関しては、初回受診者では早期癌比率がわずかに低かった。
4. 病期に関しては、63.9%が早期癌症例であり、前年度の65.0%とほぼ同様であった。50代にStage II以上の症例が多かった。
5. 術式に関しては、乳房部分切除(乳房温存)が33%であり、近年同様の比率である。
6. 治療法の多様化があり、CDK4/6阻害剤の使用症例も認めた。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は181,414人で、受診者数は52,647人、受診率は29.0%で、前年度比で0.7ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数63,987人、受診者数23,418人、受診率36.6%であった。

要精検者数は3,473人、要精検率7.1%で、前年度より0.6ポイント減少である。精検受診者は2,831人、精検受診率75.6%で前年度より0.8ポイント減少である。精密検査の結果、大腸がんは118人で、前年度比26人の減少となった。大腸がん疑いは11人であった。がん発見率（がん/受診者数）は0.22%で前年度に比べ0.05ポイント減であった。また、陽性反応適中度（がん/要精検者数）は3.15%で前年度に比べ0.32ポイント増加であった。

要精検率は東部6.6%、中部7.1%、西部7.7%、がん発見率は東部0.184%、中部0.162%、西部0.302%、陽性反応適中度は東部2.8%、中部2.3%、西部3.9%であった。

要精検率は国が示す許容値7%を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	17,974 (34.1%)	1,007	5.6	5.2	5.7	6.1
施設検診 (病院・診療所)	34,673 (65.9%)	2,736	7.9	7.2	9.0	8.2
計	52,647 (100%)	3,743	7.1	6.6	7.1	7.7

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	がん	がん発見率（%）			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	755	75.0	34	0.189	0.201	0.146	0.227
施 設 検 診	2,076	75.9	84	0.242	0.176	0.185	0.327
計	2,831	75.6	118	0.224	0.184	0.162	0.302

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	が ん 疑 い	が ん	がん発見率
東 部	361	5.2	280	77.6	2	14	0.201
中 部	351	5.7	245	69.8	0	9	0.146
西 部	295	6.1	230	78.0	1	11	0.227
計	1,007	5.6	755	75.0	3	34	0.189

(2) 施設検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	が ん 疑 い	が ん	がん発見率
東 部	1,109	7.2	859	77.5	1	27	0.176
中 部	392	9.0	289	73.7	2	8	0.185
西 部	1,235	8.2	928	75.1	5	49	0.327
計	2,736	7.9	2,076	75.9	8	84	0.242

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い129例について確定調査を行った結果、確定癌121例（地域検診34例、施設検診87例）、腺腫1例、その他7例であった。そのうち早期がんは78例、早期癌率は64.5%であった。令和3年度に比べ確定癌が32例減少し、早期癌率が3.0ポイント増加している。

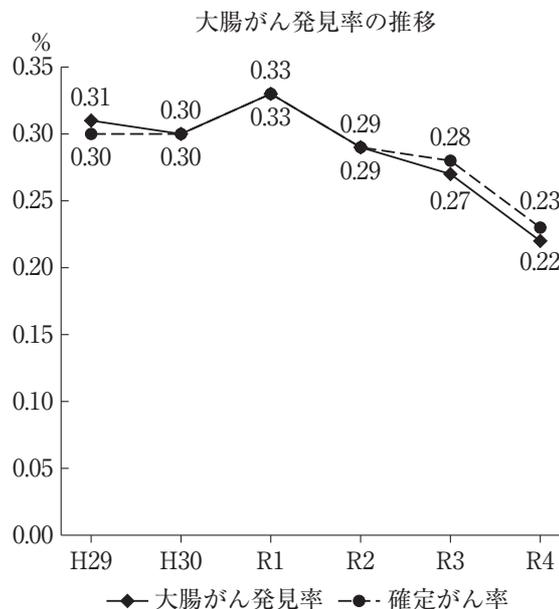
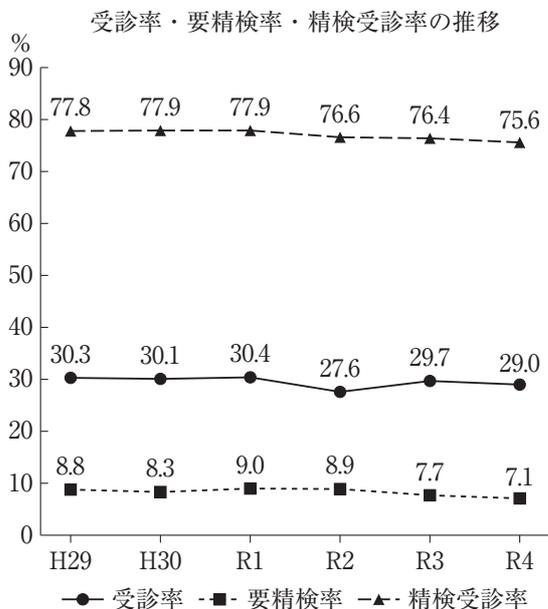
調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様の傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、70歳代が一番多かった。令和3年度は40歳代から癌が3例発見されたが、令和4年度は2例であった。
- (2) 部位では「R」と「S」合わせて52.8%で、肉眼分類では「2」が28.9%であった。早期癌78例の肉眼分類では「Ip」「Isp」合わせて44.9%であった。
- (3) 深達度「m」が41.3%、「sm」が22.3%、不明が1で、早期癌率64.4%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が73.6%、組織型分類は「Wel」が50.4%、「Mod」が38.8%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が18例（14.9%）、内視鏡下手術43例（35.5%）、内視鏡治療は58例（47.9%）であった。その他：ロボット手術1例、化学療法1例であった。
- (6) 逐年検診発見進行癌は18例（東部8例、中部2例、西部8例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	189,132	189,132	189,132	189,132	181,414	181,414
	受 診 者 数(人) B	57,352	56,991	57,476	52,107	53,884	52,647
	受 診 率(%) C = B/A	30.3	30.1	30.4	27.6	29.7	29.0
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	52,323	52,245	52,330	47,453	49,741	48,904
	要 精 検 者 数(人) E	5,029	4,746	5,146	4,654	4,143	3,743
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	8.77	8.33	8.95	8.93	7.70	7.10
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,911	3,696	4,009	3,563	3,165	2,831
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	77.8	77.9	77.9	76.6	76.4	75.6
精 密 検 査 結 果	大 腸 がん の 者(人) I	175(7)	170(13)	190(6)	149(10)	144(12)	118(11)
	大 腸 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.31	0.30	0.33	0.29	0.27	0.22
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.5	3.6	3.7	3.2	3.5	3.2
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	171	170	190	149	153	121
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.30	0.30	0.33	0.29	0.28	0.23

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和4年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		C = b / a			要精検者数		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,972	3,512	702	1,370	23.6	39.0	32.0	27	66	675	1,304	3.8	4.8	4.5
45～49歳	3,210	3,799	758	1,526	23.6	40.2	32.6	35	84	723	1,442	4.6	5.5	5.2
50～54歳	2,743	3,589	783	1,645	28.5	45.8	38.3	39	68	744	1,577	5.0	4.1	4.4
55～59歳	2,891	4,281	794	1,842	27.5	43.0	36.8	50	74	744	1,768	6.3	4.0	4.7
60～64歳	5,176	7,615	1,692	3,328	32.7	43.7	39.2	121	171	1,571	3,157	7.2	5.1	5.8
65～69歳	10,744	13,455	3,727	5,251	34.7	39.0	37.1	289	289	3,438	4,962	7.8	5.5	6.4
70～74歳	14,256	17,509	5,557	7,007	39.0	40.0	39.6	432	429	5,125	6,578	7.8	6.1	6.9
75～79歳	11,216	15,094	3,795	4,840	33.8	32.1	32.8	371	355	3,424	4,485	9.8	7.3	8.4
80歳以上	19,085	40,267	3,483	4,547	18.2	11.3	13.5	419	424	3,064	4,123	12.0	9.3	10.5
計	72,293	109,121	21,291	31,356	29.5	28.7	29.0	1,783	1,960	19,508	29,396	8.4	6.3	7.1
合計	181,414		52,647		29.0			3,743		48,904		7.1		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f / d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h y / b			j = h / d		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	19	46	70.4	69.7	69.9	9	26	10	20	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	24	63	68.6	75.0	73.1	7	28	16	34	0	0	1	1	0.132	0.066	0.088	2.9	1.2	1.7
50～54歳	28	53	71.8	77.9	75.7	5	21	22	31	0	0	1	1	0.128	0.061	0.082	2.6	1.5	1.9
55～59歳	33	65	66.0	87.8	79.0	5	24	26	38	0	0	2	3	0.252	0.163	0.190	4.0	4.1	4.0
60～64歳	86	140	71.1	81.9	77.4	20	52	59	85	1	0	6	3	0.355	0.090	0.179	5.0	1.8	3.1
65～69歳	205	232	70.9	80.3	75.6	23	78	176	146	0	0	6	8	0.161	0.152	0.156	2.1	2.8	2.4
70～74歳	315	344	72.9	80.2	76.5	39	91	258	235	3	0	15	18	0.270	0.257	0.263	3.5	4.2	3.8
75～79歳	294	276	79.2	77.7	78.5	48	77	234	193	2	1	10	5	0.264	0.103	0.174	2.7	1.4	2.1
80歳以上	314	294	74.9	69.3	72.1	58	59	231	218	4	0	21	17	0.603	0.374	0.473	5.0	4.0	4.5
計	1,318	1,513	73.9	77.2	75.6	214	456	1,032	1,000	10	1	62	56	0.291	0.179	0.224	3.5	2.9	3.2
合計	2,831		75.6			670		2,032		11		118		0.224			3.2		

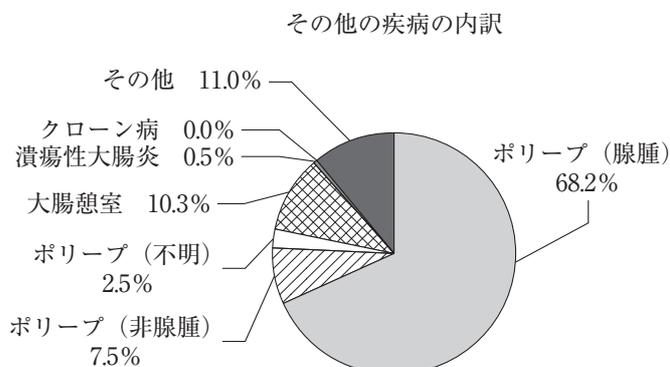
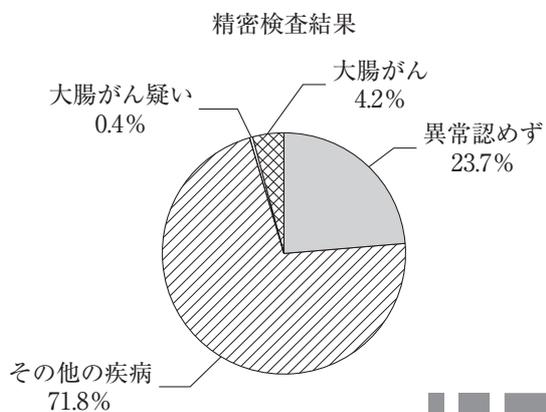
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	6,522	10,516	455	508	6,067	10,008	7.0	4.8	5.7
中国労働衛生協会	320	616	15	29	305	587	4.7	4.7	4.7
地域検診小計	6,842	11,132	470	537	6,372	10,595	6.9	4.8	5.6
病院	4,530	5,860	441	406	4,089	5,454	9.7	6.9	8.2
診療所	9,919	14,364	872	1,017	9,047	13,347	8.8	7.1	7.8
施設検診小計	14,449	20,224	1,313	1,423	13,136	18,801	9.1	7.0	7.9
計	21,291	31,356	1,783	1,960	19,508	29,396	8.4	6.3	7.1
合計	52,647		3,743		48,904		7.1		

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	330	389	72.5	76.6	74.7	55	131	257	239	3	0	15	19	0.230	0.181	0.200	3.3	4.2	3.5
中国労働衛生協会	12	24	80.0	82.8	81.8	2	13	10	11	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
地域検診小計	342	413	72.8	76.9	75.0	57	144	267	250	3	0	15	19	0.219	0.171	0.189	3.2	3.5	3.4
病院	315	300	71.4	73.9	72.6	47	91	250	201	2	0	16	8	0.353	0.137	0.231	3.6	1.8	2.8
診療所	661	800	75.8	78.7	77.3	110	221	515	549	5	1	31	29	0.313	0.202	0.247	3.6	3.3	3.2
施設検診小計	976	1,100	74.3	77.3	75.9	157	312	765	750	7	1	47	37	0.325	0.183	0.242	3.6	2.6	3.1
計	1,318	1,513	73.9	77.2	75.6	214	456	1,032	1,000	10	1	62	56	0.291	0.179	0.224	3.5	3.1	3.2
合計	2,831		75.6			670		2,032		11		118		0.224			3.2		



4) 令和4年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) Q = O/D R = O/H															
	車検診		施設検診		計		受診率 (%) E = D/A		車検診		施設検診		計		要精検率 (%) I = H/D		精 受診者数 J		精 検 受診率 (%) K = J/H		異 認めず L		常 その他の M		がん疑い N		が O		人 P = M+N+O		
	A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O		P = M+N+O	Q = O/D	R = O/H												
鳥取市	57,633	3,737	13,055	16,792	29.1	188	947	1,135	6.8	889	207	651	1	30	682	0.179	2.6														
米子市	43,796	0	10,760	10,760	24.6	0	882	882	8.2	672	144	485	3	40	528	0.372	4.5														
倉吉市	16,163	622	2,697	3,319	20.5	35	260	295	8.9	226	68	151	1	6	158	0.181	2.0														
境港市	10,796	742	2,424	3,166	29.3	41	192	233	7.4	208	33	164	2	9	175	0.284	3.9														
岩美町	4,245	1,011	537	1,548	36.5	62	35	97	6.3	71	12	57	0	2	59	0.129	2.1														
八頭町	5,674	1,725	791	2,516	44.3	82	59	141	5.6	107	29	71	1	6	78	0.238	4.3														
若桜町	1,336	135	396	531	39.7	8	33	41	7.7	32	8	23	0	1	24	0.188	2.4														
智頭町	2,723	345	560	905	33.2	21	35	56	6.2	40	11	26	1	2	29	0.221	3.6														
湯梨浜町	5,319	1,158	788	1,946	36.6	71	60	131	6.7	96	28	63	1	4	68	0.206	3.1														
三朝町	2,336	585	234	819	35.1	36	24	60	7.3	26	14	12	0	0	12	0.000	0.0														
北栄町	5,250	2,480	276	2,756	52.5	138	23	161	5.8	110	34	71	0	5	76	0.181	3.1														
琴浦町	6,243	1,338	337	1,675	26.8	71	25	96	5.7	76	11	63	0	2	65	0.119	2.1														
南部町	3,722	283	1,134	1,417	38.1	11	84	95	6.7	53	20	32	0	1	33	0.071	1.1														
伯耆町	4,091	907	446	1,353	33.1	57	52	109	8.1	70	17	49	0	4	53	0.296	3.7														
日吉津村	981	271	204	475	48.4	19	21	40	8.4	17	1	16	0	0	16	0.000	0.0														
大山町	6,342	1,346	0	1,346	21.2	85	0	85	6.3	69	11	54	1	3	58	0.223	3.5														
日南町	2,198	491	34	525	23.9	36	4	40	7.6	29	7	20	0	2	22	0.381	5.0														
日野町	1,340	266	0	266	19.9	16	0	16	6.0	15	3	11	0	1	12	0.376	6.3														
江府町	1,226	532	0	532	43.4	30	0	30	5.6	25	12	13	0	0	13	0.000	0.0														
合計	181,414	17,974	34,673	52,647	29.0	1,007	2,736	3,743	7.1	2,831	670	2,032	11	118	2,161	0.224	3.2														
東部	71,611	6,953	15,339	22,292	31.1	361	1,109	1,470	6.6	1,139	267	828	3	41	872	0.184	2.8														
中部	35,311	6,183	4,332	10,515	29.8	351	392	743	7.1	534	155	360	2	17	379	0.162	2.3														
西部	74,492	4,838	15,002	19,840	26.6	295	1,235	1,530	7.7	1,158	248	844	6	60	910	0.302	3.9														

(3) 令和4年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	16	9	12	37	28	10	54	92	44	19	66	129
確定癌	14	9	11	34	28	9	50	87	42	18	61	121
腺腫	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	1	0	1	2	0	1	4	5	1	1	5	7

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	0	2	2	2	1	1	7	15
	女	0	0	1	2	0	2	8	2	4	19
	計	0	0	1	4	2	4	9	3	11	34
施設	男	0	1	1	0	4	4	15	9	16	50
	女	0	1	0	1	3	5	9	5	13	37
	計	0	2	1	1	7	9	24	14	29	87
計	男	0	1	1	2	6	6	16	10	23	65
	女	0	1	1	3	3	7	17	7	17	56
総計		0	2	2	5	9	13	33	17	40	121

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	6	3	1	10	7	2	13	22	32(26.4)
S	2	2	4	8	5	2	15	22	30(24.8)
D	1	0	0	1	2	1	3	6	7(5.8)
T	2	0	4	6	5	1	4	10	16(13.2)
A	3	4	2	9	3	3	12	18	27(22.3)
C	0	0	0	0	5	0	3	8	8(6.6)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	1	0	0	1	1(0.9)
計	14	9	11	34	28	9	50	87	121

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	2	3	3	8	6	0	4	10	18(14.9)
11~20	9	3	4	16	12	5	22	39	55(45.5)
21~50	3	3	4	10	8	2	20	30	40(33.1)
51~	0	0	0	0	1	1	4	6	6(5.0)
不明	0	0	0	0	1	1	0	2	2(1.5)
計	14	9	11	34	28	9	50	87	121

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	26	52	78(64.5)
1	0	4	4(3.3)
2	8	27	35(28.9)
3	0	4	4(3.3)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	0	0
計	34	87	121

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	5	8	13(16.7)
I sp	12	10	22(28.2)
I s	2	16	18(23.1)
II a	0	12	12(15.4)
II a+ II c	4	5	9(11.5)
II b	1	0	1(1.3)
II c	0	0	0
III	0	0	0
その他	2	1	3(3.8)
不明	0	0	0
計	26	52	78

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	9	3	3	12	3	20	50(41.3)
sm	2	3	6	5	1	10	27(22.3)
不明	0	0	0	1	0	0	1(0.8)
小計	11	6	9	18	4	30	78(64.4)
mp	1	1	1	5	1	5	14(11.6)
ss	2	2	1	4	2	15	26(21.5)
se	0	0	0	1	1	0	2(1.7)
si	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	1	0	1(0.8)
計	14	9	11	28	9	50	121

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	12	8	10	21	5	33	89(73.6)
B	0	0	0	1	0	8	9(7.4)
C	1	1	1	4	3	8	18(14.9)
D	0	0	0	0	0	1	1(0.8)
不明	1	0	0	2	1	0	4(3.3)
計	14	9	11	28	9	50	121

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	8	6	3	9	3	32	61(50.4)
Mod	4	2	5	17	5	14	47(38.8)
Por	0	0	0	0	0	0	0
Muc	0	1	0	1	0	1	3(2.5)
その他	1	0	2	1	0	3	7(5.8)
不明	1	0	1	0	1	0	3(2.5)
計	14	9	11	28	9	50	121

※その他：pap、pap+tub2、pap>tub1を含む

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	1	1	2	6	2	6	18(14.9)
内視鏡下手術	2	3	4	8	3	23	43(35.5)
内視鏡治療	11	5	5	14	3	20	58(47.9)
その他不明	0	0	0	0	1	1	2(1.7)
計	14	9	11	28	9	50	121

※その他：ロボット手術1例、化学療法1例

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40-70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10-13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 令和4年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

令和4年度は19市町村で実施し、対象者は210,599人（令和3年度205,716人）のうち受検者数は3,999人で、受検率は1.9%で、前年度と比べ0.3ポイント減少した。要精検者数はHBs抗原陽性者32人で陽性率0.8%（前年度1.3%）、HCV抗体陽性者11人で陽性率0.3%（前年度0.3%）であった。要精検者のうち精密検査受診者は24人であり、精検受診率は55.8%で、前年度に比べ1.6ポイント減少であった。精検受診者24人中肝臓がんは0人であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は19市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	対 象 者	受 診 者	受 診 率	定 期 検 査 結 果			
				慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎	2,534人	900人	35.5%	147人 (16.3%)	12人 (1.3%)	4人 (0.4%)	4人 (0.4%)
C型肝炎	770人	285人	37.0%	32人 (11.2%)	3人 (1.1%)	9人 (3.2%)	0人 (0.0%)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から令和4年度の28年間を集計すると、受診者総数は183,657人、HBs抗原陽性者3,782人 陽性率2.06%、HCV抗体陽性者3,777人 陽性率2.06%であった。年齢別陽性率はB型で50-54歳をピークに山型を示し、C型は高齢になるほど陽性率が高かった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 令和4年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんまたは疑いは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がんが3名であった。2件は確定診断がされておらず経過観察中である。多発例もあり、がん切除など根本的治療もされている。
- (2) 平成7年から開始した肝臓がん検診によって発見された肝臓がんは令和3年度までで31人で現在生存中の患者は3人であった。1例は無再発だが、2例は再発し治療をされており、予後は良くない状況である。平成10年から開始した定期検査によって発見された肝臓がんは精査中も含めて令和3年度までで200人で現在生存中の患者は54人である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 検 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
R 2	4,399	60	1.4	11	0.3
R 3	4,458	57	1.3	12	0.3
R 4	3,999	32	0.8	11	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
R 2	71	48	67.6	0	0.00
R 3	68	39	57.4	0	0.00
R 4	43	24	55.8	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	令和4年度			平成7～令和4年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	852	0.2	0.0	20,791	1.59	0.45
45～49歳	314	0.0	0.0	14,009	2.58	1.06
50～54歳	333	0.6	0.0	15,388	2.82	1.30
55～59歳	277	0.4	0.7	18,696	2.50	1.79
60～64歳	552	1.1	0.2	31,902	2.17	2.20
65～69歳	703	1.6	0.3	34,587	2.06	2.42
70～74歳	705	1.0	0.4	28,656	1.76	2.81
75～79歳	149	0.7	0.7	11,062	1.48	3.46
80歳以上	114	1.8	1.8	8,566	1.37	3.21
計	3,999	0.8	0.3	183,657	2.06	2.06

(2) 令和4年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢階級	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b + d)/a			f = (c + d)/a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	270	582	268	582	2	0	0	0	0	0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
45～49歳	128	186	128	186	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～54歳	117	216	116	215	1	1	0	0	0	0	0.9	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0
55～59歳	125	152	123	151	1	0	1	1	0	0	0.8	0.0	0.4	0.8	0.7	0.7
60～64歳	281	271	276	269	4	2	1	0	0	0	1.4	0.7	1.1	0.4	0.0	0.2
65～69歳	407	296	399	291	7	4	1	1	0	0	1.7	1.4	1.6	0.2	0.3	0.3
70～74歳	396	309	389	306	6	1	1	2	0	0	1.5	0.3	1.0	0.3	0.6	0.4
75～79歳	94	55	93	54	1	0	0	1	0	0	1.1	0.0	0.7	0.0	1.8	0.7
80歳以上	51	63	50	60	1	1	0	2	0	0	2.0	1.6	1.8	0.0	3.2	1.8
計	1,869	2,130	1,842	2,114	23	9	4	7	0	0	1.2	0.4	0.8	0.2	0.3	0.3
合 計	3,999		3,956		32		11		0		0.8			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者		精密検査対象者												結果		
		精密検査受診者		健康指導				診断名				その他				肝臓がん発見率		
		男	女	脂肪肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		男	女	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
40~44歳	B型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
45~49歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
50~54歳	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
55~59歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
60~64歳	B型陽性	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
65~69歳	B型陽性	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
70~74歳	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
75~79歳	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
80歳以上	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
計	B型陽性	10	9	8	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	10	14	8	10	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
合計	B型陽性	19	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	24	18	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

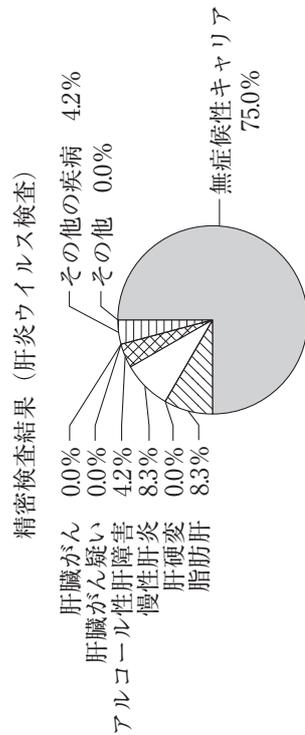
一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) $e' = (b' + d')/a'$			HCV抗体陽性率 (%) $f' = (c' + d')/a'$			
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		HBs・HCV ともに陽性 d'		男	女	計	男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							計
直 営	70	15	70	15	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	453	672	445	668	8	1	0	3	0	0	0	1.8	0.1	0.8	0.0	0.4	0.3
中国労働衛生協会	40	37	40	37	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病 院	402	390	394	385	7	3	1	2	0	0	0	1.7	0.8	1.3	0.2	0.5	0.4
診 療 所	904	1,016	893	1,009	8	5	3	2	0	0	0	0.9	0.5	0.7	0.3	0.2	0.3
計	1,869	2,130	1,842	2,114	23	9	4	7	0	0	0	1.2	0.4	0.8	0.2	0.3	0.3
合 計	3,999		3,956		32		11		0		0.8			0.3			

b. 精密検査結果

一次 検査機関	区分	精密検査者		精密検査結果												肝臓がん 発見率 (%) h' = g'/a'		
		精受診者		検査者診断名														
		無症候性キャリア		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん			その他の疾病	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女
直営	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健事業団	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働 衛生協会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	3	4	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	C型陽性	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	3	6	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
診療所	B型陽性	4	5	3	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	4	7	3	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	10	9	8	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	10	14	8	10	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	19	17	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	C型陽性	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	24	18	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上



4) 令和4年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況（最終報告）

実施市町村数＝19

市町村名	対象者数			受診者数			陽性者数			精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R=P/D	
	A	単検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原のみ陽性 F	HCV抗体のみ陽性 G	HBs抗原HCV抗体ともに陽性 H	HBs抗原陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗体陽性率 (%) J=(G+H)/D	精受診者数 K	精受診率 (%) L=K/(F+G+H)	無症候性 キヤリア M	その他の 疾病 N	がん疑い O	がん P		有所見者 Q=N+O+P
鳥取市	62,599	409	780	1,189	1.9	6	1	0	0.5	0.1	5	71.4	4	1	0	0	1	0.000
米子市	64,119	0	993	993	1.5	6	2	0	0.6	0.2	5	62.5	3	2	0	0	2	0.000
倉吉市	15,778	76	269	345	2.2	8	5	0	2.3	1.4	6	46.2	5	1	0	0	1	0.000
境港市	15,464	87	154	241	1.6	1	0	0	0.4	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
岩美町	4,396	33	0	33	0.8	1	0	0	3.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
八頭町	4,805	127	0	127	2.6	2	0	0	1.6	0.0	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000
若桜町	1,426	5	5	10	0.7	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	2,683	38	36	74	2.8	2	0	0	2.7	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	7,209	39	130	169	2.3	2	0	0	1.2	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
三朝町	3,658	67	70	137	3.7	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	5,516	32	75	107	1.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
琴浦町	4,490	40	33	73	1.6	2	0	0	2.7	0.0	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000
南部町	4,129	27	105	132	3.2	0	3	0	0.0	2.3	2	66.7	1	1	0	0	1	0.000
伯耆町	5,293	122	0	122	2.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	871	18	0	18	2.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	4,495	114	0	114	2.5	1	0	0	0.9	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
日南町	1,256	11	34	45	3.6	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1,517	13	28	41	2.7	1	0	0	2.4	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
江府町	895	29	0	29	3.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合計	210,599	1,287	2,712	3,999	1.9	32	11	0	0.8	0.3	24	55.8	18	6	0	0	6	0.000
東部	75,909	612	821	1,433	1.9	11	1	0	0.8	0.1	8	66.7	7	1	0	0	1	0.000
中部	36,651	254	577	831	2.3	12	5	0	1.4	0.6	7	41.2	5	2	0	0	2	0.000
西部	98,039	421	1,314	1,735	1.8	9	5	0	0.5	0.3	9	64.3	6	3	0	0	3	0.000

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

(3) 平成7～令和4年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 令和4年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	健康指導対象者数 (令和4年4月1日現在の実人員)		定期検査結果											
	受診者数 (令和5年10月31日現在の実人員)		健康指導対象者診断名						検査結果					
	男	女	慢性肝炎	脂肪肝	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他		
40～44歳	7	12	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	33	29	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	27	40	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	43	62	5	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	88	119	27	34	2	3	9	6	0	0	0	0	0	0
65～69歳	133	195	45	60	2	3	4	14	1	0	0	1	2	0
70～74歳	201	308	82	103	2	5	16	20	4	1	0	0	0	3
75～79歳	210	325	73	105	3	6	19	11	2	3	0	0	0	1
80歳以上	236	466	87	113	3	5	15	20	0	1	0	0	3	2
計	978	1,556	334	445	12	25	69	78	7	5	1	4	4	10
合計 (比率%)	2,534		900 (100)	674 (74.9)	37 (2.7)	147 (14.1)	12 (1.3)	1	4 (0.4)	4 (0.4)	14 (1.6)	7 (0.8)		

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

2) 令和4年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	健康指導対象者数 (令和4年4月1日現在の実人員)		定期検査結果											
	受診者数 (令和5年10月31日現在の実人員)		健康指導対象者診断名						検査結果					
	男	女	慢性肝炎	脂肪肝	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	C型肝炎ウイルス消失例		
40～44歳	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	11	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	9	17	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	32	22	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	50	61	16	16	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	33	86	15	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	112	318	46	122	1	3	4	20	0	0	0	0	0	0
計	258	512	94	191	2	4	6	26	3	0	0	0	4	11
合計 (比率%)	770		285 (100)	73 (25.6)	6 (2.1)	32 (11.2)	3 (1.1)	0	0 (0.0)	9 (3.2)	6 (2.1)	155 (54.4)	1 (0.4)	

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～令和4年度肝臓がん検診結果（最終報告）

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率（%） C = B/A			陽性者数 D		陽性率（%） E = D/A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	6,983	13,808	136	194	1.95	1.40	1.59	42	51	0.60	0.37	0.45
45～49歳	4,632	9,377	134	227	2.89	2.42	2.58	45	103	0.97	1.10	1.06
50～54歳	4,718	10,670	150	284	3.18	2.66	2.82	42	158	0.89	1.48	1.30
55～59歳	5,827	12,869	151	316	2.59	2.46	2.50	83	252	1.42	1.96	1.79
60～64歳	12,508	19,394	328	365	2.62	1.88	2.17	222	479	1.77	2.47	2.20
65～69歳	15,259	19,328	348	365	2.28	1.89	2.06	312	526	0.00	2.72	2.42
70～74歳	12,431	16,225	238	265	1.91	1.63	1.76	322	482	2.59	2.97	2.81
75～79歳	4,475	6,587	77	87	1.72	1.32	1.48	151	232	3.37	3.52	3.46
80歳以上	3,221	5,345	35	82	1.09	1.53	1.37	116	159	3.60	2.97	3.21
計	70,054	113,603	1,597	2,185	2.28	1.92	2.06	1,335	2,442	1.91	2.15	2.06
合計	183,657		3,782		2.06			3,777		2.06		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

(1) 令和4年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

※発見がんなし

(2) 令和4年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性別	市町村	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	69	女	鳥取市	肝機能正常									2.0	1343	腫瘍が見当たらないPIVKA高値 鳥取日赤にて精査 2023.12.26肝機能正常、2023.06.15血液検査所見なし、 2023.12.14肝機能正常、日赤次回診察なし（鳥取北クリ ニック情報共有）
2	79	男	湯梨浜町	慢性B型肝炎									3.9	25.23	脳梗塞後に外来通院、他疾患あり。血液検査は他院に てUSのみ年に1回当院で施行。R5年1月27日USにて 新たな腫瘍があり、R5年2月6日厚生病院紹介受診。 →慢性B型肝炎にて経過観察
3	72	女	米子市	肝臓がん	動注化学療法 分子標的薬	2022.09.14	4個以上	S8	44×45 49×42	腫瘍	無	B	2833.0	365	2022.09.14～2023.01.18 肝動注療法→PD 2023.02.14～2023.03.28 Atez/Bev→PD7 2023.04.19～2023.12.05 LEN→PD 2023.12.19 RAM開始
4	60	男	日南町	肝臓がん	肝切除	2023.07.06	単発	S2・S3	45×37	腫瘍	無	B	10.8	ワーファリン有	肝外側区域切除術
5	65	男	伯耆町	肝臓がん術後	肝切除	2022.04.22	単発	S6	14×13	腫瘍	無	B	20.2	72	鳥取大学医学部付属病院松本先生確認2/14 2022.04.22 肝S6部分切除術
6	77	男	日南町	進行がん	肝切除	2023.10.25	3個	S8、 S4/8、 S7/8	57×40 S4/8 10×10 S7/8 4×4 S8	腫瘍	有	B	257.0	10900	肝硬変で精密精査し肝がんと診断。手術施行。
7	74	男	鳥取市	肝臓がん	肝切除	2022.01.12	単発	S1	30×25	腫瘍	無	C	3.0	519	2023.10.03 CT:術後肝内に再発所見を疑う腫瘍はあり ません。次回2024.01.16再診予定。
8	72	女	若桜町	肝臓がん	ラジオ波焼灼 療法	2023.05.09	単発	S3	12	腫瘍	無	C	4.0	21	2023.09.27再診。CT:門脈血栓なし。HCC:再発なし。 腹水なし。血液検査:貧血なし。肝機能著変なし。次回 12/20再診予定。
9	71	男	日南町	肝臓がん	TACE	2023.04.17	単発	S2	25×20	腫瘍	無	C	2.0	244	04.17鳥取大学医学部付属病院でTACE、その後当院で 経過観察。

(3) 平成10年度～令和3年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査
1	71	男	切除	95. 8.	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			再発、6年11か月後死亡	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			4年6か月後死亡	
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	有	C			再発、5年9か月後死亡	
4	63	男女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C			12年11か月後他病死	
5	59	男女	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B			再発、3年2か月後死亡	
6	76	男女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C			再発、2年9か月後死亡	
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C			再発、3年5か月後死亡	
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C			11か月後死亡	
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C			8か月後死亡	
11	64	男女	切除	00. 2. 8	2個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	有	C			再発、3年6か月後死亡	
12	79	男女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B			8年8か月後死亡	
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B			再発、4年2か月後死亡	
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C			1年2か月後他病死	
15	74	男女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C			再発、4年4か月後死亡	
16	64	男女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C			再発、5年8か月後死亡	
17	75	男女	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C			4年5か月後死亡	
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C			4年1か月後他病死	
19	86	男女	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C			7年9か月後他病死	
20	70	男女		01. 7. 2						C			同月死亡	
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	28396		3年10か月後死亡	
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	5		3年8か月後再発、2021/10県外へ転出	
23	76	男女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	3		再発、4年3か月後死亡	
24	66	男女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	有	C	8		無再発生存中	2024. 04. 04再発なし経過観察のみ
25	75	男女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	719		5年1か月後他病死	
26	73	男女	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2074		7か月後死亡	
27	76	男女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	4		2年1か月後他病死	
28	79	男女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	有	C	83		1年10か月後死亡	
29	79	男女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	538		再発、3年6か月後死亡	
30	82	男女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	有	B	5		再発、2年5か月後死亡	
31	78	男女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	4		1年3か月後他病死	
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	6215		再発、10年8か月後死亡	
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	有	C	22		再発、3年5か月後死亡	
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	59		再発、9年8か月後死亡	
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	29		再発、6年8か月後死亡	
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	15		3年10か月後死亡	
37	91	男女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	NT		2か月後死亡	
38	74	男女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	NT		2年10か月後死亡	
39	75	男女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	239		再発、4年2か月後死亡	
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	6		再発、6年4か月後死亡	
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	8		無再発生存中	無再発生存中。ウルソ服用中。
42	78	男女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	1447		再発、7年3か月後死亡	
43	75	男女	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	80		再発、1年3か月後死亡	
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	5		再発、8年2か月後死亡	
45	72	男女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	44		再発、1年5か月後死亡	
46	62	男女	TAE	03. 4.	不明	不明		腫瘍	有	C	1055		再発、3年後死亡	
47	86	男女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	55		5か月後死亡	
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B			再発、6年後死亡	
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	2		4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除 再発なし。他病死 (2022. 7月)	
50	64	男女	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	28		再発、3年3か月後死亡	
51	73	男女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	270		4年10か月後死亡	
52	75	男女	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	170		再発、3年10か月後死亡	
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	3		5年5か月後死亡	
54	75	男女	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	11		4年2か月後死亡	
55	87	男女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	22		4年後他病死	
56	89	男女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	有	C	210		4年1か月後他病死	
57	82	男女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1		1年9か月後他病死	
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	20		2年11か月後再発 H28. 9. 26死亡	
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	35		再発、7年7か月後死亡	
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	4		6年3か月後再発 生存不明	
61	68	男	肝腫瘍		(単発)	S6	13×13		無	B	2		生存不明	
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	147		再発、3年6か月後死亡	
63	79	男女	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	54		1年10か月後死亡	
64	87	男女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	158		再発、6年4か月後死亡	
65	79	男女	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	10		再発、6年10か月後他病死	
66	82	男女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	14		再発、7年3か月後死亡	
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	12		H28. 5再発S543mm 治療希望されず 12年7か月後死亡、死亡原因不明	
68	72	男女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	79		再発、4年10か月後死亡	
69	81	男女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	有	C	251		再発、12年11か月後死亡	
70	80	男女	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	42		再発、6年1か月後死亡	
71	73	男女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	28		1年6か月後死亡	
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	14		2年10か月後再発、13年5か月後死亡、肝関連死	
73	82	男女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	22		再発、1年後死亡	
74	80	男	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	2. 4		再発、9年6か月後死亡	
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単発	S8	16×16			B	17		7年1か月後再発、2020/2 S6 8mmRFA	生存。2022年11月よりベムリデイ隔日服用中。
													2022. 5. 19 S5(以前のRFA 瘢痕の中核側Φ1cm) 鳥犬にてS5部分切除施行	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査
76	73	男	M/R	03.8.5	>4個	S348	15×15		無	B	58.6		再発、8年後死亡	生存。2023.12.15 脳卒中にてハビリ施設へ。
77	73	男	切除	05.3.14	単発	S45	42×28	腫瘍	無	B	289		再発、3年後死亡	
78	74	男	切除	06.12.21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	4.7		再発、8年10か月後死亡 3年4か月後再発。	
79	60	女	RFA	07.7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	9.8		再発あり(2022.3月) 2022.10.26 TACE	予後不明。2022.06を最後に受診連絡なし。
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2.8		2年7か月後他病死	
81	80	女	TAE	03.3.	単発	S2/3	20×20		有	C	7.0		再発、8年7か月後死亡	無再発生存中。
82	77	女	TAE	08.10.7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	3.2		再発、2年後死亡	
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	4		H29.3.22 S1 2.5cm再発 肝切除、H30.6.21 S8 亜区域切除 2.3cm	予後不明。2022.06を最後に受診連絡なし。
84	77	女	TAE	09.3.24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	2012		1年3か月後肝不全死	
85	84	女	T/P	09.9.7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	3643		2年1か月後肝不全死	
86	72	女	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	7.8		再発、3年2か月後死亡 4年1か月後再発、2021/ 1/18USB発肝のう腫、肝 腫瘍病変	生存。2018年4月 S4-RFA。
87	79	女	TAE	10.11.18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	197		2022.6.6 超高齢であり、 造影CTや積極的治療を行 わない	
88	89	男	TAE	09.10.6	>4個		20×20	腫瘍	有	C	3.7		3年9か月後死亡	生存。2018年4月 S4-RFA。
89	76	女	T/R	08.5.12	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	3.9		5年2か月後再発、9年8 か月後死亡、他病死心不全	
90	76	女	T/R	09.7.22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	11.8		1年7か月後死亡	
91	79	男	T/R	10.3.25	単発	S7	23×23		有	C	9		2年11ヶ月後他病死	無再発生存中
92	85	女	切除	10.3.	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	3.9		再発、3年後死亡	
93	66	女	TAE	09.7.	>4個	S1		浸潤	有	B	58		1年10か月後死亡	無再発生存中
94	73	男	切除	09.10.20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	2.8		無再発生存中	
95	68	女	切除	09.8.21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	4.9		生存中、リスト外という意 見有	無再発生存中。
96	75	男	TAE	08.1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	10.9		再発、5年3か月後死亡	
97	78	男	精査中							C	189			2023.12.12呼吸困難に 手入院。肝がん肺転移 に伴うものとして入院 での緩和ケア加療開始。 2023.12.15に永眠され た。(岩美病院)
98	75	男	TAE	07.2.11	単発	S6			無	B	5.3		再発、7年5か月後死亡	
99	66	男	TAE	11.1.20	2個	S5/6	12×12	腫瘍		C	5		H28.11.11HCC再発リン パ節転移 H29.7.10死亡	無再発生存中。
100	80	女	RFA	10.11.09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	48.4		3年8か月後再発、9年8 か月後死亡	
101	64	女	TAE	10.11	単発	S6	5×5	腫瘍	有	C	26		再発、5年1か月後死亡	無再発生存中。
102	75	女	切除	08.7.30					無	C			H27.1再発。2022.12月 再 発患者背景から、積極的な 治療困難であり、BSCとし て対症療法の方針となった。	
103	75	男	TAE	10.12.08	>4個	S2/5/ 6/7/8	20×17	腫瘍	有	C			再発、2年5か月後死亡	無再発生存中。
104	69	女	RFA	10.4	単発	S6	18×18		無	C	19		3年10か月後再発、8年1 か月後死亡、肝臓死	
105	79	男	TAI	09.10.26	2個	S7/8	18×15	腫瘍	有	C	60.3		2年8か月後死亡	無再発生存中。
106	71	女	切除	07.8.17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	148		再発、4年5か月後死亡	
107	85	女	RFA	10.7	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	16.6		再発、5年4か月後他病死	無再発生存中。
108	84	女	RFA	09.10.30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	B	1.9		無再発、2020/2/19他病死	
109	65	女	T/R	10.03.	単発	S5	24×24		有	C	7.8		再発、4年11か月後死亡	無再発生存中。
110	57	女	切除	11.1.18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	4		無再発生存中	
111	78	女	肝がん 否定		単発	S5	5×5		有	C	4.9		5か月後腫瘍消失、他病死	無再発生存中。
112	87	男	RFA	11.4.7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	7.8		死亡詳細不明	
113	67	男	肝がん 否定							C	14.2			無再発生存中。
114	77	女	RFA	11.7	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.9		再発、3年8か月後死亡	
115	92	女	TAE	11.10.4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	9.2		再発、2年5か月後死亡	生存不明。
116	78	女	T/R	10.3.24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	31		9か月後再発、11年2か月 後死亡	
117	76	男	切除	11.7.26	単発	S7	80×75	腫瘍	無	C	8.7		無再発 H24.6.24死亡	生存不明。
118	75	男	RFA	11.7	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	5.3		3年2か月後再発。2016.3 以降来院なし	
119	84	男	転移性肝 癌(肺大 細胞癌)							B	2		5か月後死亡	無再発生存中。
120	75	男	RFA	13.10.2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	52		1年11か月後再発 H27.9 H27.12 H29.10 再発しRFA施行、2020/5/ 29肝臓死	
121	75	男	切除	11.6.					有	B	17		4年0か月後他病死	無再発生存中。
122	70	女	PEI	12.5.9	単発	S4	27×20	腫瘍	有	C	21		再発、8か月後死亡	
123	83	男	TAE	11.8.30	単発	S6	35×30	腫瘍	無	C	5		2年7か月後再発 2015.7 2016.10再発にてRFA 死 亡他病死	認知症が進行し、妄想 がひどく施設入所。内 服も抗精神病薬のみと なり、老衰にて死去 (R5年4月18日)。
124	75	女	RFA	8.1	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	9.2		2016.4再発 RFA。2021 年に重症認知症で施設入所。 生存不明	
125	80	女	TAE	12.11.20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	5.7		再発、1年11か月後死亡	不明
126	86	男	T/R	13.11	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	36.6		無再発生存中	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査
127	78	女	RFA	12.3.1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	16.2		1年10か月後再発 H27.10 H28.5TACE H29.1RFA 2020/6再発S6 RFA 2021/6再発S4 TACE 2023年調査：体力+認知症のため追加治療困難	2024.01.29 CTで肝左葉をほぼ占拠に至っている。生存。
128	82	女	RFA	12.3.14	単発	S7	13×9	腫瘍	有	C	10.1		2年10か月後死亡	
129	87	女	TAE	12.7.6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	414.5		再発、2年5か月後死亡	
130	85	女	RFA	12.2.13	単発	S5	10×17	腫瘍	無	C	15.2		再発、3年8か月後死亡	
131	76	男	TAE	12.6.20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	82		3年1か月後死亡	
132	81	女	TAE	10.11.10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C			再発、2年6か月後死亡	
133	68	男	切除	13.5.20	単発	S5	35×38	腫瘍	無	B	52		2年9か月後死亡 死因不明	
134	60	女	TAE	13.8.26	単発	S3	18×15	腫瘍	有	B	3548		再発、4年5か月後死亡、 肝臓死	
135	70	女	RFA	14.4	単発	S1	14×14	腫瘍	無	B	2.9		無再発生存中	無再発生存中。
136	83	女	T/R	13.10	単発	S7	26×26	腫瘍	無	C	2638		再発、5年7か月後死亡	
137	88	男	TAE	13.10.31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	28.9		1年後再発 肺転移 左副 腎転移 肝内再発、3年2 か月後死亡	
138	79	女	切除	13.3	単発	S8	45×45	浸潤	無	C	32		1年3か月後死亡	
139	73	男	T/R	13.7.2	>4個	両葉	24×24	浸潤	無	C	19		1年8か月後死亡	
140	80	女	T/P	13.5.1	単発	S5	30×30	腫瘍	無	C	21		9か月後再発 7年4か月 後死亡、心不全死、肝がん 死を除く関連死	
141	94	男		12.8.6				浸潤	有	C			2年4か月後死亡	
142	83	女	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	10250		再発、7年後死亡 2022.4月再発あり 2022.5.18 RFA。	
143	67	男	切除	14.5.27	単発	S5	20×20	腫瘍	無	B	3.0	14	2022.6.22 CT RFA後 LDA形成 新たなHCCなし	生存
144	66	女	T/R	14.9.10	単発	S3	25×25	腫瘍	有	B	32.0		2016.10 再発 TACE 2021/7/5死亡	
145	73	男	T/R	14.4.16	2個	S45	10×17	腫瘍	無	B	3.0	26	再発、6年4か月後死亡、 肝臓死	
146	77	女	TAE	12.10.17	2個	S6	7×14	腫瘍	有	C	119.1		3年2か月後死亡	
147	78	女	切除	15.12.17	単発	S5	15×15	腫瘍	有	C	2.1	9799	再発無	無再発生存中。
148	89	女						腫瘍	有	B	1.7	16	死亡	
149	85	男	TAE	15.11.13	単発	S8	32×28	腫瘍	無	B	2.5	23	生存不明、2018.1月以降来 院なし	生存不明。
150	74	男	T/R	15.9.7	単発	S4	24×22	腫瘍	無	B	8.4	1.7	再発なし、2021/7/7他病死	
151	76	女	TACE	17.8.2	>4	S5678	36×33	腫瘍	有	C	31.7	811	再発、1年1か月後死亡、 肝臓死	
152	76	男	切除	16.3.16	単発	S8	23×20	腫瘍	有	NBNC	7.8	226	再発なし	
153	80	女	TAE・ RFA	16.9.23	単発	S7	29×29	腫瘍	無	C	4.1	123	1年後再発 RFA施行 2020/10/8肝臓死	
154	90	女	RFA	13.5	2個	S6S8	14×13 11×10	腫瘍	無	C	15.5	12	4年4か月後 他病死 脳 出血	
155	81	男	RFA	16.10.5	単発	S8	14×14	腫瘍	有	C	7.0	19	生存、再発なし(2022.10月)	無再発生存中。
156	79	女	RFA	16.6.15	単発	S6	7×8	腫瘍	無	C	1.6	14.6	SVR後発癌、生存、再発 なし(2023年)	2022.12.07を最後に定期 受診なし。(厚生病院)
157	73	女	無治療	18.1.15	単発	S8	10×10	腫瘍	有	C	7.0	62	Pugh 10にて無治療を希望 9か月後死亡	2023.03.27 最終来院、 その後不明(倉吉シ ティ内視鏡クリニック)
158	68	男	肝切除	17.10.20	単発	S8	13×13	腫瘍	無	B	6.8	26	再発、生存 再発あり(2022.11月) テセントリク・アバスチン で化学療法	2023.03.19 肝がん死 亡 鳥取市立病院
159	75	女	TAE+ RFA	16.2.17	単発	S7	11	腫瘍	有	B	2	15	生存、再発なし	生存、再発なし。ペム リディ服用中。
160	77	女	TAE/ RFA	17.4.1	2個	S2、S6	12、19	腫瘍	有	C	46	20	再発、生存 2020/11再発 2020/11/17 TACE(S3/4) 2021/6/8 TACE (S3/4) 2021/7/27 RFA。 2022.10.13 TACE 生存(2022.10.19)	2023.04 S3に35mm再 発あり。放射線治療 (定位)。 2023.09 S3/4に35mm、 S6に10mm再発あり。 TACE。 生存。
161	74	男	TAE/ TAE+ RFA	15.6.2	2個	S5S7	14、13	腫瘍	有	C	2	9	再発、生存 2022.10.20～ 両下肢浮腫 増悪 蜂窩 博愛病院消化器内科へ入院 中	2020年7月肝細胞がん を認め、入院加療を行 った。以後、肝予備 能不良にて胸水などの 治療を行った。肝左葉 に巨大な再発を認めて いた。2023年4月29日 施設にて亡くなった。
162	85	男	RFA	14.2.18	単発	S4	15	腫瘍	有	C	2	12	再発、4年9か月後死亡	
163	82	男	TAE	17.5.10	4個以上	S4578	46	浸潤	有	C	446	346	2年1か月後死亡	
164	70	男	TAE	17.6.26	4個以上	S3S7	14×13	腫瘍	有	C	11.57	54	2年10か月後死亡	
165	70	女	RFA	14.8.15	単発	S6	20	腫瘍	無	C			再発あり(2022.2月) 2022.2.24 TACE 肝S 6:1.8cm	治療後2023.10.05再診。 AFP:5 PIVKA:22 CT:明らかなHCC再 発なし。右胸水減少。次 回2024.01.04再診予定。

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査	
166	82	男	肝切除	10.7.15	単発	S5	13	腫瘍	有	C			再発、生存、2021/1/11死亡	2019年2月の肝切除後、再発認めず。(県立中央病院外来フォロー中)	
167	85	女	TAE	16.1.26	単発	S6	25×14	腫瘍	有	B	1		再発、生存		
168	88	女	無	19.1.21	単発	S4	41×43	腫瘍	有	B	688.9	54	2021/2/16死亡 1年後死亡、肝癌死		
169	69	女	肝切除	19.2.25	不明	S7	30mm	腫瘍	無	B	2.1	11	生存、再発なし		
170	77	男	肝切除	19.6.11	単発	S2		腫瘍	無	B	2.04	3500	肝がん死(2022.7月)		
171	71	男	RFA	18.1.31	2個	S7	21×19	腫瘍	有	B	3.5	28	再発、生存 再発あり(2019.5月) 2019.6.21 RFA		無再発生存中。
172	74	女	TAE		3個	S358	10×10	腫瘍	無	C	1603	27	再発、生存 2021/6/1死亡		
173	97	女	無	19.3.22	単発	右葉	50	腫瘍	有	C	866.4		2か月後死亡		
174	85	男女	無	18.5.9	2個	右葉	不明	腫瘍	不明	C	2966		2年5か月後死亡		
175	83	女	肝切除	19.5.8	単発	S4	14×11	腫瘍	無	C	3.5	17	生存、再発なし		
176	80	男	BSC		単発	S8	26×20	腫瘍	有	B	16.16	66	HB+アルコール Pugh Cのため治療はされず 尾崎病院に転院 2019年11月8日診断		無再発生存中。 2020.08.17尾崎病院退院となり、以後の加療はとっとり在宅・漢方クリニックに依頼。 2021.04.14とっとり在宅・漢方クリニック最終診療で県立中央病院に入院。 2021.09 県立中央病院生存確認。以後は不明。
177	81	女	肝切除	18.10.16	単発	S5	30×23	腫瘍	無	B	3.1	34	2018/6/19診断 前区域切除+S6亜区域切除 20201102再発なし		無再発生存中。
178	74	女	TAE+RFA	16.3.15	単発	S8	15×15	腫瘍	無	B	27.2	17	20201022 再発なし		無再発生存中。
179	72	女	肝切除	19.5.10	単発	S3	25×25	腫瘍	無	B	6.1	68	20190408診断 腹腔鏡下外側区域切除 20201029再発なし		無再発生存中。
180	81	男	TACE	16.7.12	多発	S8 ₃ (S)	15	腫瘍	有	C	7	172	2016.7.12 TACE AFP7 2017.5.25 TACE AFP7 2021.2.16 TACE AFP7 2022.5.24 AFP7.356 2022.5.30 肝がん死(肝細胞癌)		無再発生存中。
181	85	男	TAE	19.9.6	単発	S7	32×32	腫瘍	無	C	3	1581	2019/7/5診断 20200902再発なし		アンギオ・肝生検でHCCと診断し、TACEを行った。 2023.11に右腸骨骨転移で再発有。
182	86	女	TAE	19.7.25	単発	S4	38×28	腫瘍	有	C	53.1	32	肝癌破裂にてTACEにて止血 201909以後に死亡		再発なし、生存中。
183	80	女	RFA	19.3.29	単発	S8	17×11	腫瘍	無	C	3	20	20201008再発なし		
184	98	女	BSC		多発	S8	30	腫瘍	無	C	4	535	鳥取赤十字 202010HCC多発転移 要確認 緩和ケア 2022.05.13肝がん死 肝切除時期不明 多発骨転移 放射線療法20201109	生存	
185	84	男		20.11.10						C	2.7	195	2019/6 骨転移にて対して放射線治療開始。以後も骨転移病巣判明しては放射線治療を行っている経過。 2019.4.10 CT:明らかなHCC再発なし 他院へ情報提供 半年ごとのフォローとされているが、来院なし 2020.10.2 膝の手術で県外にいるとの連絡が最後、来院なし 胃痛、前立腺癌、上行結腸癌の合併あり 2021/7/9胃下垂全摘術施行、結腸切除、肝切除術、両側精巣切除 2021/7/19死亡(急性心不全)		
186	83	女	肝切除	15.5.18	単発	S2	27×22	腫瘍	有	C	13	38	2020/12/4 TACE実施	無再発生存中。	
187	85	男	その他	21.6.10	単発	S7	45×30	腫瘍	無	B	2.6	820	2021/1/28 エコー下にRFAを行った。	生存。2023.08 再発。2023.09.14 肝S2、22mm大異所性再発に対しRFA。	
188	85	女	TAE	20.11.26	単発	S7	12×10	腫瘍	無	B	2.4	25	2017/11/24 部分切除2か所	無再発生存中。	
189	73	女	RFA	21.1.28	単発	S5	8×8	腫瘍	有	B	2.6	16.22	2014年2月 S5:12mm大肝がんに対しRFA 以後再発なく経過観察中	2024.03.27 神経内科通院中。肝がんに対する検査は数年してないが現在特に症状なし。	
190	64	男	肝切除	17.11.24	2個	S2,S5	33×26 20×20	腫瘍	無	B	18.8	48	2021年9月8日のMRIで肝細胞癌の所見を認めたため、精査加療目的に鳥取大学医学部附属病院に紹介	R 5年7月5日時点生存。再発なし。	
191	79	女	RFA	14.2	単発	S3	12	腫瘍	有	C			2021年11月18日 S5:8mm大HCCにRFA 2022年8月18日 S7:18mm大HCCにRFA	生存。2024.01再発。2024.02.15肝S4、10mm大異所性再発に対しRFA。	
192	89	男	肝切除	2021.11.19	単発	S5	3.3	腫瘍	無	B	3.6	66			
193	74	男	RFA	2021.11.18	単発	S5	8.1×6.2	腫瘍	有	B	20.0	94.07			

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査
194	81	男	肝臓がん(治療後)										肝臓がん治療後のため、調査票に記入なし	
195	89	男	TAE RFA		2 個	S3 S8	40×46 28×38	腫瘤	無	B	2.2	1447	鳥大第2内科にて2個のHCCに対して、TAE、RFAによる治療が反復実施されていた。終末期は腹腔内リンパ節及び生身骨に多発転移。	
196	67	男	肝切除	2017.1.22	単 発	S8	30×30	腫瘤	有	B	2.4	208	2016/11初発stage II 2017/1/22他院で肝前区域切除術施行 無再発で経過良好	肝機能変動あるも再発なく経過
197	81	男	肝切除	2018.8.29	単 発	S2	39.7× 16.1	浸潤	無	C	16.0	149	平成30年7月11日に定期検査で腫瘍マーカーが上昇したことから、ふじせクリニックより紹介受診。平成30年8月29日 S2に対して肝外側区域切除、S5/6に対して生検+RFAを実施した。(S5/6は悪性所見なし)	2024.03.08他病死(山陰労災)
198	72	男	肝切除	2022.3.11	単 発	S8	40×30	腫瘤	有	C	4.0	35	C型肝炎治療後、経過観察中に定期検査で、S8にHCCが出現。鳥大にて令和4年3月11日にS8区域切除術を施行し、以後再発なく現在に至る。現在、山陰労災病院でフォロー中	2021.12.21定期受診時に腹部dynCTにて肝細胞癌と診断。切除目的に鳥大へ紹介し2022.03.11鳥大にてS8区域切除術を施行。(sT2 NOMO sStage II)術後2022.05.13より、山陰労災病院でフォロー中。
199	80	女	RFA		単 発	S5	14	腫瘤	無	C	3.0	57	2022.10.19 CTにHCC再発なし。1年1回はCTフォロー 次回2023.1.11再診予定。 RFA2014.9.8 RFA2017.9.4 TACE2020.12.10	無再発生存中。
200	81	女	肝切除	2022.6.1	単 発	S4	2.5	腫瘤	有	C	7.0	228	2022.6.1当院外科にて(S4)肝部分切除施行。同年7月1日外科終診。内科にて定期フォロー。 2022.11.9 CTに明らかなHCC再発なし。腹水少量あり。門脈血栓縮小。糖尿コントロール良好。肝機能著変なし。腫瘍マーカー正常。次回2023.2.1予定。	2023.05.12化学療法開始。12.06本日の化学療法(11回目)1剤で実施。血液検査:AFP横ばい PIVKA II増加あり。次回12.28再診。

(4) 平成7年度～令和2年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2024調査
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C			再発、7年7か月後死亡	
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	有	C			再発、2年1か月後死亡	
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C			再発、15年1か月後死亡	
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C			再発、3年9か月後死亡	
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5/7/8	35×35	腫瘍	無	C			再発、1年8か月後死亡	
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S6/7	67×57	腫瘍	無	B			9か月後死亡	
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—			再発、1年1か月後死亡	
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C			再発、5年2か月後死亡	
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C			再発、6年1か月後死亡	
10	73	男	TAE	97.11.17	>4個	S2/3/4	80×60	腫瘍	無	C			3か月後死亡	
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S5/6/8	15×10	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C			7か月後死亡	
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B			1年後死亡	
14	80	男	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C			9か月後死亡	
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4/5/6/8	80×80	浸潤	無	B			4か月後死亡	
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—			再発、1年5か月後死亡	
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	260		1年10か月後死亡	
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1、5	25×25	腫瘍	有	C	219		再発、3年11か月後死亡	
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1、4	30×30	腫瘍	有	C	25		再発、3年11か月死亡	
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25	腫瘍	無	B			無再発生存中	無再発生存中
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	28.9		3年後再発、生存不明	生存不明。
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘍	有	C	22.3		37日後死亡	
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	594		2年6か月後死亡	
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移あり				B	2200		10か月後死亡	
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C	18.3		1年5か月後再発 2017.5.9死亡 肝がん死	
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B	7.2		無再発生存中、2019/6/8肝腫瘍死	
27	72	女	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B	960		1年5か月後死亡	
28	74	女	TAE	15.3.26	2個	S4/5	72×72	腫瘍	有	C	3106		死亡H27.4.27溺死	
29	86	女	緩和治療		>4個	S2/4/5/7/8	68×60		有	C	14219		死亡	
30	48	男	切除	16.7.13	単発	S7	23×19	腫瘍	無	B	4923		2016.12動注 2017.3ネクスアパール 2018/1/11生存、 2021/9/5肝部分切除 再発あり(2022.4月)肺転移 2022.6月 肺切除	生存。
31	60	男	切除	19.8.6	2個	S4	25	腫瘍	無	B	11.8	16	再発、生存 2021/8 胸骨転移→胸骨腫瘍切除 2021/12 胸椎転移→放射線治療	生存。全身化学療法を続けている。

7. 全国がん検診実績との比較

令和3年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

区 分		令和3年度実績 (鳥取県)	令和3年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	63,987	49,912,949	○受診者・がん発見=(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者=「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	22,900	1,248,725	
	受診率 (%)	35.8	2.5	
	要精検者数 (人)	230	62,205	
	要精検率 (%)	4.78	4.98	
	精検受診者数(人)	183	48,955	
	精検受診率 (%)	79.6	78.7	
	がんの者 (人)	18	653	
がん発見率 (%)	0.08	0.05		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	49,063	37,792,382	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,215,945) + (3,453,280) - (794,484)}{(37,792,382)} \times 100 = 15.5$ 鳥取 $\frac{(24,040) + (24,472) - (13,903)}{(49,063)} \times 100 = 70.5$
	受診者数 (人)	24,472	3,453,280	
	受診率 (%)	49.9 (70.5)	(15.5)	
	要精検者数 (人)	362	81,468	
	要精検率 (%)	1.48	2.36	
	精検受診者数(人)	291	63,215	
	精検受診率 (%)	80.4	77.6	
	がんの者 (人)	2	942	
がん発見率 (%)	0.01	0.03		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	63,987	50,006,746	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く)
	受診者数 (人)	22,096	3,051,356	
	受診率 (%)	34.5	6.1	
	要精検者数 (人)	634	45,940	
	要精検率 (%)	2.87	1.51	
	精検受診者数(人)	557	37,888	
	精検受診率 (%)	87.9	82.5	
	がんの者 (人)	10	811	
がん発見率 (%)	0.05	0.03		

区 分		令和3年度実績 (鳥取県)	令和3年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	36,251	24,909,657	○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(1,947,300) + (2,222,260) - (320,817)}{(24,909,657)} \times 100 = 15.5$ 鳥取 $\frac{(11,637) + (12,236) - 820}{(36,251)} \times 100 = 63.6$
	受診者数 (人)	12,236	2,222,260	
	受診率 (%)	33.8 (63.6)	(15.5)	
	要精検者数 (人)	831	137,631	
	要精検率 (%)	6.79	6.19	
	精検受診者数(人)	791	123,705	
	精検受診率 (%)	95.2	89.9	
	がんの者 (人)	43	7,232	
がん発見率 (%)	0.35	0.33		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	63,987	50,009,634	
	受診者数 (人)	24,641	3,536,875	
	受診率 (%)	38.5	7.1	
	要精検者数 (人)	1,456	192,536	
	要精検率 (%)	5.91	5.44	
	精検受診者数(人)	1,078	134,644	
	精検受診率 (%)	74.0	69.9	
	がんの者 (人)	52	5,479	
がん発見率 (%)	0.21	0.15		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69歳以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69歳以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

令和4年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	26.2%		34.2%		
要精検率 [X線のみ]	許容値	11.0%以下	6.6%	○	4.6%	○	
精検受診率 [X線のみ]	許容値	70%以上	84.1%	○	79.8%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.34%	○	0.21%	○	
陽性反応的中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	3.4%	○	3.4%	○	

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.4%		33.0%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.4%		2.6%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	88.0%	○	88.3%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.07%	○	0.07%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.3%以上	2.1%	○	2.6%	○	

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.0%		36.6%		
要精検率	許容値	7.0%以下	7.1%		5.6%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	75.6%	○	75.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.22%	○	0.14%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.9%以上	3.2%	○	2.4%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	24.9%		48.8%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.16%	○	1.43%		
精検受診率	許容値	70%以上	80.9%	○	81.3%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.02%		0.03%		
陽性反応的中度	許容値	4.0%以上	1.7%		1.8%		

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	15.5%		32.4%		
要精検率	許容値	11.0%以下	5.99%	○	6.79%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	95.3%	◎	95.2%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.42%	○	0.35%	○	
陽性反応的中度	許容値	2.5%以上	7.0%	○	5.1%	○	

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 令和5年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

令和5年度がん検診従事者講習会及び症例研究会等開催状況

事業名	開催日時	場所	出席者	内容
胃がん検診従事者講習会 及び症例研究会	令和6年3月9日(土) 午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	120名	演題：「胃がん検診の⑧テクニクク〜ピロリ未感染時代の注意点〜」 野中康一先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 三嶋豪志先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 藤井雄基先生 西部—1例：米子医療センター 原田賢一先生
子宮がん 検診従事者講習 会及び症例検討会	令和6年2月4日(日) 午後4時～午後5時50分	米子市 鳥取県西部医師会館	46名	演題：「子宮頸がん・子宮体がん診療 Up to date」 山上 亘先生 講師：慶應義塾大学医学部産婦人科学教室教授 小松宏彰先生 症例提示4例：鳥取大学医学部附属病院 室田真希子先生
肺がん 検診従事者講習会 及び症例研究会	令和6年2月24日(土) 午後4時～午後6時	倉吉市 鳥取県立倉吉未来中心	60名	演題：「胸部単純X線写真撮影—見える肺癌を見落とさないために—」 講師：香川大学医学部放射線医学講座講師 橋本政幸先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 安田健悟先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 大野貴志先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院
乳がん 検診従事者講習会 及び第30回鳥取県検診発 見乳がん症例検討会	令和5年9月2日(土) 午後4時～午後5時30分	倉吉市 鳥取県立倉吉未来中心	21名	演題：「乳癌診療の流れと周期期治療について」 講師：鳥取大学医学部附属病院胸外科診療科群講師 若原 誠先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 山口由美先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 大田里香子先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 田中裕子先生
大腸がん 検診従事者講習 会及び症例研究会	令和6年2月17日(土) 午後4時～午後5時50分	鳥取市 鳥取県健康会館	78名	演題：「大腸がん外科治療の現状2024」 講師：鳥取県立中央病院消化器外科部長 蘆田啓吾先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 横濱桂介先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 細田康平先生 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 八島一夫先生
肝臓がん 検診従事者講習 会及び症例研究会(令和 5年度鳥取県医学会ラン チオンセミナー)	令和5年6月11日(日) 午後12時20分～午後1時 30分	米子市 鳥取県西部医師会館	92名	演題：「B型肝炎の最新治療と再活性化対策」 講師：鳥取大学医学部附属病院消化器・腎臓内科助教 永原天和先生 症例検討 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 永原天和先生

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 令和6年3月9日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 三 嶋 豪 志

症 例：50歳代 女性

既往歴：HP除菌

検診歴：2017年、2018年に上部消化管内視鏡での検診を受けていたが、腫瘍性病変は指摘されていなかった。

経 過：2019年7月に胃癌検診として上部消化管内視鏡を施行され、胃体下部後壁に周堤を伴う2型腫瘍を指摘された。内視鏡所見から胃癌を疑われ、当院を紹介受診した。当院で生検を行ったところ、Group5(por, sig)の診断であり、当院外科でロボット支援下幽門側胃切除術を施行された。

病 理：Adenocarcinoma, por, sig, 0-IIc, 130×115mm, pT4a(SE)pN0 cM0, INFc, Ly0, V1a, PM1, DM1, R1

考 察：ピロリ除菌後胃に発生したスキルス胃癌の症例であった。後方視的に画像を見直したが、今回病変を指摘された胃体下部後壁については、これまでの内視鏡写真では指摘出来なかった。上部消化管内視鏡検査では胃体部後壁をはじめとして、観察が難しい部位があり、改めて盲点のない内視鏡観察の重要性を認識した。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 藤 井 雄 基

症 例：40歳代 男性

既往歴：特記事項なし HP除菌歴なし

検診歴：2018年、2021年に胃透視による検診を受け、異常は指摘されていなかった。

経 過：2022年6月の胃透視検診で吻門部小弯側欠損様を指摘された。

2022年7月の前医内視鏡検査で吻門部に2型腫瘍あり、生検にてgroup5(tub2)であった。2022年8月に鳥取県立厚生病院受診となった。当院のEGDでは食道胃接合部やや口側に病変を認め、生検行ったところバレット腺癌の診断となった。当院消化器外科で化学療法施行されたあとに鳥取大学医学部附属病院消化器外科へと紹介となり、ロボット支援下噴門側胃切除術が施行された。

病 理：Adenocarcinoma, well>moderatelydifferentiatedtype, INFb, pT2(pMP), Lyla(D2-40), V1a(EVG), pIMO, pPMO, pDMO, pRMO

考 察：食道と胃をまたがるように中分化型腺癌の浸潤を認めたが、切除標本からはバレット上皮はなく、原発は胃か食道か判断がつかなかった。後方視的に画像を見直すと2021年の胃透視検査でも吻門部に同様の欠損様を認めたが、指摘されていなかった。近年、食道胃接合部癌は増加傾向であり、食道や吻門部についても丁寧な読影の必要性を再認識した症例であった。

〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 原 田 賢 一

症 例：70歳代 男性

既往歴：Hp除菌成功（時期不明）、高血圧症、脂質異常症、緑内障

検診歴：2020年、2021年、内視鏡検診受検あり、慢性胃炎、異所性腺を指摘されていた。2022年11月、内視鏡検診で胃体部後壁に異常を指摘され、同年12月、精査加療目的に当院紹介となった。

経 過：2021年12月、上部消化管内視鏡検査で胃体下部後壁に周囲やや隆起した辺縁不整な陥凹性病変を認め、生検でpor1、口側陰性生検ではGroup1であった。同病変の深達度は粘膜下層深層以深と判断、非切除因子を認めなかったため、2023年1月に腹腔鏡補助下幽門側胃切除術を施行した。

病 理：M、Post、Type 3、30×30mm、por1、T4a(SE)、INFb、ly0、v0、pPM1、pDM0(105mm)、pN0、M0、pStage IIB

考 察：発見前年の2020年の内視鏡画像を見直すと胃体部後壁に血液の付着した粗糙粘膜を認めており、読影時に指摘されなかった理由、原因は不明であったが、少なくとも読影医は異常所見を見た場合、検診医にその旨を伝えなければならぬと猛省する症例であった。腫瘍ボリュームがあり、深達度は粘膜下層深層以深と術前診断していたが、術後診断でT4aであり、隆起部分では胃癌細胞は粘膜面には存在せず、粘膜下で浸潤していたため、術前の口側生検では胃癌細胞が捉えられず、範囲診断が困難であった。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 令和6年2月4日（日） 午後4時～午後5時50分

場 所 鳥取県西部医師会館

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科学分野講師 佐藤慎也先生の進行により、4例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科学分野講師 小松宏彰先生より下記の4症例が提示された。

症例1は30代女性。2017年の施設検診でNILM、HPVハイリスク型陽性であった。その後も細胞診異常が持続し、2022年の細胞診でASC-US、狙い組織診でHSILであった。2023年2月に円錐切除術を施行され、最終診断はHSIL/CIN3であった。

症例2は30代女性。2018年はNILMであったが、細胞像を見返すと2核細胞やkoilocytosisがみられ、HPV感染が疑われた。2022年12月に細胞診でSCCと判定、その際の経膣超音波断層法で妊娠が判明した。2023年1月に本人の希望で子宮内容除去術を受けた。2023年2月に組織診でHSIL、HPV45型陽性であり、同年5月に円錐切除術が施行され、最終診断はHSILであった。

症例3は30代女性。2018年の細胞診でNILMであったが、koilocytosisがみられ、HPV感染が疑われた。2022年の細胞診でASC-US、同年10月に頸部組織診でSCCと判定された。2022年12月に円錐切除術を施行され、病理組織学的所見は子宮頸癌 I A1期と診断され、大学病院に紹介。大学病院での検鏡の結果、HSILと診断。以後は経過観察となった。

症例4は60代女性。2020年までの細胞診はNILMであった。2022年10月の集団検診の際に易出血性腫瘍を指摘され、細胞判定はAdenocarcinoma + HSILであった。近医受診し、細胞診でSCCと判定。同月、大学病院を紹介受診。頸部組織診でSCC、骨盤部MRIで子宮頸部に24*17mmの腫瘍を認め、子宮頸癌 I B2期と診断された。2022年12月に広汎子宮全摘出術、両側付属器摘出術を施行され、最終診断は子宮頸癌 I B1期（pT1b1N0M0）、組織型は扁平上皮癌（HPV関連）となった。

各症例の細胞診所見を供覧し、診断治療に至るまでの問題点の有無を検討した。細胞判定がASC-USであっても、その後のフォローや正常と判定された細胞像を再確認することでHPV感染の再評価に繋がり、最悪の事態を回避できる可能性があることを再確認できた。

令和5年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	33歳	米子市	R 2. 9. 28 R 4. 10. 25	母と子の長田産科婦人科 クリニック(妊婦健診) 彦名レディースライフクリ ニック	ASC-US ASC-US HPV陽性(その他)	彦名レディースライフクリ ニック	severe dysplasia or CIS CIN3		彦名レディースライフクリ ニック	
症例2	33歳	米子市	H30. 12. 12 R 4. 12. 26	ミオ・ファティリテイ・ クリニック(妊婦健診) 脇田ウイメンズヘルスケ アセンター	NILM SCC HPV陽性(その他)	鳥取大学医学部附属病院			鳥取大学医学部附属病院	
症例3	31歳	倉吉市	H30. 9. 14 R 4. 9. 24	はまよしレディースクリ ニック レディースクリニックひ まわり小笹産婦人科	NILM ASC-US	鳥取県立厚生病院	SCC	I A1期	鳥取大学医学部附属病院	
症例4	64歳	伯耆町	R 4. 9. 11	鳥取県保健事業団	HSIL	中曾産婦人科医院	SCC	I B2期	鳥取大学医学部附属病院	

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 令和6年2月24日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県立倉吉未来中心

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 橋本政幸

症 例：70歳代 男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：200X年人間ドックの胸部X線にて右下肺野結節影を指摘され当院内科受診。胸部CTにて（胸部X線の指摘とは異なる）右肺中葉の1.6×0.8cm大の癥痕様陰影を指摘されたが約2年の経過観察にてわずかに縮小傾向がみられたためCTによる経過観察は終了。その後も毎年かさかさ検診を受けていたが200X+16年の肺がん検診で右下肺野結節影を指摘され当院放射線科受診。CTにて200X年に指摘されていた陰影がわずかに増大し内部に微細な空洞も出現していたため鳥取県立中央病院呼吸器内科に気管支鏡検査を依頼した。

既往歴：特記事項なし

喫煙歴：なし

臨床経過：気管支鏡検査にて肺腺癌と診断され同院胸部外科にて胸腔鏡下右肺中葉切除術が施行された。術後病理診断はAdenocarcinoma with minimal invasion (Lepidic 95% Acinar 5%) pT1mi (腫瘍サイズ2.0×0.8cm 浸潤径：0.2cm) pN0cM0 pStage I A1、形態的には肺胞虚脱と強い線維化、空洞形成をみとめ、その内外に腺癌がみとめられた。

考 察：200X年から16年分の胸部X線写真を後方視的に観察すると、年によって線状影あるいは結節影として観察できたり異常を指摘できなかつたりとまちまちであったが、観察できた年も過去の経過を参考に「精査不要」と判定されていた。このような非常に緩徐に進行する肺腺癌を確実に拾い上げるためには、CTで何らかの陰影が指摘された症例は、以降はCT検診にまわすなどといった検診システムの変革も検討する必要があるかもしれない。また、画像診断の観点からは、肺腺癌にはすりガラス成分に乏しい器質化肺炎様、癥痕影様の形態をとるものがあること、そして、経過中には縮小したり内部に空洞を形成したりと、炎症と紛らわしい形態変化をとることがある事も知っておくことは重要であると考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 安田健悟

症 例：50歳代 女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：毎年肺がん検診を受けていたが、これまで異常指摘はなかった。20XX年5月に左上肺野の異常陰影で当院内科を受診した。CTで左肺尖部に結節影を認め、呼吸器内科を紹介受診した。気管支鏡生検で肺腺癌と診断され、20XX年7月に手術加療目的に当科紹介となった。

既往歴：特記事項なし

生活歴：非喫煙者

臨床経過：検診時胸部X線にて左鎖骨と重なる位置に増大傾向を示す陰影を認めた。CTでは左S1

+ 2に2.2×1.7cm大のpart solid GGN、S3、4に5mm大のpure GGNを認めた。明らかな肺門縦隔リンパ節の腫大は認めなかった。気管支鏡生検にて肺腺癌と診断され、左上葉肺癌(cT1bN0M0、stage I A2)に対して胸腔鏡下左上区切除+ND1aを施行した。術後経過は良好で、術後4日目に自宅退院となった。術後病理にて肺腺癌(pT1cN0M0、stage I A3)と診断され、S3、4のGGNはAAHであった。術後補助療法としてuFT内服加療中である。

考 察：本症例は、胸部X線読影において見落としやすいとされる肺尖部に発生した腫瘍であった。2013-2023年に当院で手術を施行した原発性肺癌(593例)を後方視的に検討したところ、検診発見は118例(20.0%)であった。ピットフォールと他肺野に位置する腫瘍とで腫瘍径に有意差は認められなかったが、検診発見された肺癌のうちピットフォールに位置していた症例は55例(47.4%)であり、相対的な症例数としては少なくないと考えられた。見落としやすい位置を中心に比較読影を用いた慎重な読影が必要である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 大野 貴志

症 例：70歳代 男性

主 訴：胸部X線異常陰影

現病歴：これまで検診で異常を指摘されたことはなかった。X年、検診で胸部X線異常陰影を指摘され、当院呼吸器内科受診。CTで右中葉に結節影を認め、気管支鏡検査で非小細胞肺癌と診断。手術目的に当科紹介受診となった。

既往歴：前立腺癌、大動脈弁狭窄症、心房細動

生活歴：喫煙 10本×46年 (former smoker)

臨床経過：胸部X線では、右下肺野に結節影を認め、胸部CTで右中葉に腫瘍径2.8×2.1×2.1cm、充実成分径2.8cm、C/T ratio=1.0の結節を認めた。気管支鏡で非小細胞肺癌と診断した。PETでは、主腫瘍にSUVmax 15.3の集積を認めたが、明らかなリンパ節転移や遠隔転移は認めず、頭部造影MRIでも明らかな脳転移はなく、右中葉肺癌(cT1cN0M0、stage I A3)の診断で、開胸右中葉切除+上葉部分合併切除+ND1aを施行した。術後病理診断は、Keratinizing squamous cell carcinoma、pT2a(2.5×2.4×2.0cm、inv. 2.5cm)、p13、Ly0、V1、pN0、p-stage I Bの診断であった。

考 察：本症例は、後方視的にみると、X-1年にも指摘可能であったが、血管影と重なる位置であり、見逃されていた。血管影は先細りになるため、先細りになってない所見を認めた場合、病変がないかよく読影することが必要で、また、下肺野は上肺野に比べて陰影が目立つため、注意して読影する必要がある。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 令和5年9月2日(土) 午後4時～午後5時30分

場 所 鳥取県立倉吉未来中心

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由美

症 例：41才 女性

主 訴：なし(検診MMGで要精査)

既往歴：乳腺炎、妊娠出産歴 1回

家族歴：特記すべきことなし

病 歴：乳癌検診で左U-Oの微小円形石灰化の集簇を指摘され、左はカテゴリー3と診断された。
MMGでは高濃度乳房であった。

所見および経過：視触診は異常なし。超音波で右乳房C領域に14×10×9mmの腫瘤性病変あり。過誤腫などの良性腫瘤を疑った。左C領域に約8mm大の低エコー域あり。形状は不整だが、血流なし。石灰化は認めなかった。明らかに悪性を疑う所見なく、6か月後フォローとしたが、MMG、超音波所見ともに変化なし。さらに初診から11か月後のMMGに変化は認めなかったが、超音波で左C領域の低エコー域に周囲のひきつれを伴う所見あり。生検の結果、ER(-)、PgR(-)、HER2(-)のtriple negative乳癌であった。MRIで腫瘤非形成のびまん性病変を認め術前にdose dense chemotherapyを施行した。

手 術：左乳房切除術(Bt+Ax)

病 理：ypT0N0M0

術後治療：PMRT

まとめ：高濃度乳房に発生した腫瘤非形成の乳癌であった。フォロー中のMMGに変化は認めず、発見の遅れにつながったことは反省すべき点である。高濃度乳房症例ではMMGの限界を知り、早期診断のためには他のモダリティを活用していく必要があると考えられた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 大田 里香子

症 例：50代女性

現病歴：検診精査通知確認後に左乳房腫瘤に気づき、翌月当科受診。

所 見：(MG)左M微細鋸歯状腫瘤cat4(視触診)左A区域に1.5cm大腫瘤を触知(US)16*10mm
境界不明瞭腫瘤(CNB)浸潤性乳管癌、ER0、PgR0、HER2(2)→FISH(-)、ki-67 38%

診 断：左乳癌(A) c-T1cN0M0 c-stage I、TN type、BRCA1/2(-)

術前化学療法：ddEC 4クール、wPTX 12クール

手 術：左Bt+SN

術後診断：左乳癌(A) yp-TisN0M0 yp-stage0、pCR

術後治療：なし

まとめ：検診発見TNtypeの乳癌で、術前化学療法によりpCRを得られた症例であった。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 田 中 裕 子

症 例：80歳代 女性

現病歴：乳房腫瘍を自覚し前医受診。

所 見：(MMG) 右MLO-M、CC-OにFAD、カテゴリー3。経時的にみると7年前よりFADを疑う所見あり。(US) 右CD区域に21mm大不整形の低エコー腫瘍（主病変）、周囲の尾側、内側にそれぞれ10mm大、4mm大の不整形低エコー腫瘍を認める。(MRI) 右CD区域に20mm大のスピキュラ様濃染を伴う造影結節を認める。周囲には娘結節を疑う小濃染を認める。

(VAB) 浸潤性乳管癌、ER>90%、PgR>90%、HER2 2+、HER2-FISH陰性、Ki67 10%

診 断：右乳癌(C)、cT2N0M0、cStage IIA、luminalタイプ

手 術：右Bt+SLNB

病理診断：Invasive ductal carcinoma with a predominant intraductal component、浸潤径10×5mm、全体径75×20mm、g、Ly0、V0、margin-、NGI、HG I、ER≥90%、PgR≥90%、HER2 1+、Ki67 9.8%

術後診断：右乳癌、pT1bN0(sn) M0

術後治療：アナストロゾール内服

まとめ：検診マンモグラフィーでもFADと認識されていたが、比較読影で不変であったため要精査にならなかったのかもしれない。本症例の様に悪性度の低い癌の場合、2年の経過では変化がわかりにくい場合もある。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 令和6年2月17日(土) 午後4時～午後5時50分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 横濱桂介

症 例：40歳代、男性

主 訴：なし（便潜血陽性）

現病歴：生来健康であり、毎年大腸癌検診を受けていたが陰性であった。20XX年3月に便潜血陽性を初めて指摘され、精査目的に当院を紹介受診された。

既往歴：特記事項なし

家族歴：特記事項なし

内視鏡検査所見：S状結腸に10mm大の発赤調有茎性ポリープを認め、頂部に不整な陥凹面を有していた。NBI併用拡大観察では、発赤調の隆起部位はJNET type2Aが主体であったが、陥凹面はvessel pattern、surface patternともirregularであり、また、一部無構造様の領域も認めた。SM深部浸潤も疑われる所見であったが、有茎性であったためtotal-biopsy目的でHot snare polypectomyを施行した。

病理検査所見：腫瘍基部から隆起部には腺腫成分が残存していたが、隆起部の大部分はtub1からtub2からなり、陥凹面はやや分化度が低くtub2主体となっていた。Desmin染色にて粘膜筋板を確認すると腫瘍は粘膜固有層に局限していたが、D2-40染色にて粘膜固有層内のリンパ管に腫瘍浸潤を認めた。Adenocarcinoma、pType0-Ip+Iic、tub1-tub2、pTis(M)、Ly1、V0、BD1、HM0、VM0。

考 察：現行の大腸癌治療ガイドラインでは、内視鏡切除後のpT1症例において、垂直断端陰性の場合には①SM浸潤度1,000 μ m以上、②脈管侵襲陽性、③低分化腺癌、印環細胞癌、粘液癌、④簇出BD2/3の4つのリスク因子の有無で追加腸切除の適応を分別している。本症例は粘膜内癌であったもののリンパ管浸潤を認めた症例であり、内視鏡切除後の治療方針についてコンセンサスは得られていないが、リスク因子を有しているpT1症例で経過観察した後に転移再発した場合にはサルベージ手術が適応できない場合が多く、癌死の可能性もある。本症例は比較的若年の症例であり、経過観察する場合のリスクを外科医と一緒に十分説明し今後追加腸切除を予定しているが、毎年大腸癌検診を受けていたために早期発見することができた症例である。引き続き若い世代の大腸癌検診の受診についても啓発していく必要がある。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 細田康平

症 例：56歳 男性

主 訴：便潜血陽性

既往歴：椎間板ヘルニア、痔核（手術）、糖尿病

現病歴：50歳から毎年大腸癌検診を受けていた。2021年または2022年に便潜血陽性を指摘されていたが、医療機関へ受診しなかった。2023年6月9日検診で便潜血陽性を指摘され、近医を受診した。大腸内視鏡検査にて多発ポリープとS状結腸に有茎性病変あり。6月23日当科

紹介受診となる。

生活歴：喫煙なし、飲酒なし

常用薬：シタグリプチン、イプラグリフロジン、ビソプロロール fumarate、メトホルミン、ロサルタンカリウム

内視鏡所見：結腸に5 mm前後のポリープが散見された。S状結腸の有茎性病変は、頂部に陥凹を認めた。NBI観察では陥凹以外の部分は腺腫性病変を疑ったが、陥凹面の拡大観察ではJNET分類タイプ2Bと判断し、早期がんを疑った。有茎性病変について留置スネアを使用して出血なく切除した。

病理結果：Adenocarcinoma (10%) in tubular adenoma tub2、M、Ly0、V0、pHM0、pVM0

検討：本症例は数年前に一度便潜血陽性を指摘されが、医療機関への受診はなかった。内視鏡治療の結果からは早期がんであったが、進行がんとなっていた可能性もあり、検診陽性者における精密検査率の向上も重要な課題である。治療については有茎性病変で茎が太くて長かったため、太い血管が走行し、切除時に出血のリスクが予想された。留置スネアを併用し、絞扼して治療することで出血なく切除することができた。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 八 島 一 夫

症 例：70歳代 男性

既往歴：糖尿病、高血圧

検診歴：毎年大腸がん検診は受診していたが、便潜血陽性を指摘されたことはなかった。

経 過：2022年7月大腸がん検診を受診され、便潜血陽性であった。8月に大腸内視鏡検査が施行され盲腸部に隆起性病変が認められ、9月当院紹介となった。明らかな血便などの症状なく、便秘、体重減少も認めなかった。当院消化器外科で回盲部切除術が施行された。

病 理：C、Type0-Isp、52×45mm、tub1>tub2、pT1b(SM；5,000μm)、INFa、Ly0、V1a、BD1、Pn0、PM0、DM0、RM0、pN0、M0、pStage I、R0、CurA

考 察：本症例は、毎年大腸がん検診を受診されている。発見年に大腸がん検診で便潜血陽性となり、大腸内視鏡検査で病変が確認され、SM浸潤癌であったが、早期癌の段階で外科切除が施行された。便潜血検査は大腸内視鏡検査と比べ感度は低いが、5年連続で便潜血検査を受けると大腸内視鏡検査と同等の感度が得られることが報告されている。便潜血による大腸がん検診は毎年受診して頂くことが重要である。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和5年6月11日(日) 午後12時20分～午後1時30分

場 所 鳥取県西部医師会館

[西部症例]

提出者：鳥取大学医学部附属病院 永原 天和

はじめに：がん薬物療法や免疫抑制療法はB型肝炎ウイルス(HBV)の再活性化を生じる。HBV再活性化からの肝炎は重症化しやすく、時に致命的な転帰となり得る。したがってHBs抗原陽性者には肝臓専門医への紹介と適切な核酸アナログ治療が必要である。がん診療に関わる全ての医療従事者にHBV再活性化対策の重要性を改めて周知すべく本症例を報告する。
※診療科や個人の特定につながる恐れがあるため診断名や治療薬剤名について明記していないことをご了承ください

症 例：70歳代男性

主 訴：食欲低下、嘔気、倦怠感、尿の濃染あり

既往歴：以前より、HBs抗原陽性については本人も認知しており、かかりつけ医からセロコンバージョン後で落ち着いている状態であると説明を受けていた。

20XX年8月 当院にて△△癌、多発骨転移の診断に至った。この時の検査でHBs抗原陽性(定量値63,900IU/mL)であったが肝機能障害は認めなかった。HBV-DNA定量検査は未実施であった。

20XX年8月 1st line 抗がん剤A

20XX+1年10月 2nd line 抗がん剤B

20XX+2年1月 3rd line 抗がん剤C + プレドニゾロン内服併用(10mg/日)

同年7月 AST・ALTの上昇(Grade 3)を認め、抗がん剤Cによる薬物性肝障害と判断され減量投与となった。その後も変動する肝障害を認めたが、適宜抗がん剤Cの用量調整で対応されていた。

20XX+4年6月 AST 54U/L、ALT 102U/Lとトランスアミナーゼの上昇あり。

同年7月にはAST 1,149U/L、ALT 1,313U/L、T.Bil 5.7mg/dLと著明な肝障害を認め消化器内科へ紹介となった

身体所見：体重72.8kg、体温36.1℃、脈拍79/分、血圧152/106mmHg、意識清明、羽ばたき振戦なし、眼球結膜に貧血なし、黄疸を認めた。腹部は平坦、圧痛なし、緊満なし、下肢浮腫を両側に軽度認めた

入院時検査所見：WBC 9,600/ μ L、RBC 4.39万/ μ L、Hb 14.3g/dL、Hct41.6%、PLT 11.4万/ μ L、PT%45.2%、PT-INR 1.51、Na 142mmol/L、K 3.7 mmol/L、Cl 107mmol/L、Ca 8.2 mg/dL、補正Ca 9.3mg/dL、BUN 19.5mg/dL、Cr 0.73 mg/dL、T.P 5.6g/dL、ALB 2.9g/dL、T.Bil 5.7mg/dL、AST 1,149U/L、ALT 1,313U/L、ALP 258U/L、 γ -GTP 329U/L、LDH 583U/L、Glu 128mg/dL、CRP 0.82mg/dL、NH₃ 63 μ g/dL、HBs抗原定性(+)、HBs抗原定量109,756IU/mL、HBs抗体定性(-)、HBc抗体定性(+)、HBc抗体定量123.1 COI、HBe抗原定性(-)、HBe抗体定性(+)、HBV-DNA定量8.3LogIU/mL

画像所見：腹部超音波検査および腹部CTでは、肝実質は均一であるが辺縁はやや鈍化し、肝周囲には腹水を認めた。胆嚢は浮腫性の壁肥厚を認め、急性肝障害に伴う所見であった。

経 過：消化器内科紹介当日に緊急入院とし、HBs抗原陽性キャリアからのHBV再活性化による

急性肝障害と診断し、直ちにエンテカビルを投与した。ALTは低下に転じ、HBV-DNA定量値の低下は得られた。しかし、総ビリルビンの上昇、PT%の低下は止まず、肝不全に細菌感染症の合併もあり亡くなられた。

考 察：日本肝臓学会B型肝炎治療ガイドラインには、「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン」としてHBV再活性化対策について記載されている。治療開始前には全例に対してHBs抗原検査を行うこと、HBs抗原陰性であってもHBs抗体・HBs抗体検査を行ってHBV既感染の有無をスクリーニングすることが求められている。HBs抗原陽性者については、肝臓専門医へ紹介のうえで核酸アナログを開始する必要がある。本症例はがん薬物療法開始前にHBs抗原陽性は把握されていたが、肝臓専門医への紹介がされないまま治療が開始された。治療経過中に肝障害を生じるも、B型肝炎の関与を疑われることなくHBV-DNA測定は行われなかった。HBV再活性化による肝炎では、トランスアミナーゼ上昇に先行して、HBV-DNA定量値の上昇がみられるため、早期に再活性化を捉えるためには専門医への紹介やHBV-DNAモニタリングが重要である。HBs抗原陽性例はHBV再活性化リスクが総じて高リスクであり、がん薬物療法や免疫抑制療法を行う診療科の医師は速やかに専門医への受診勧奨を行うべきである。肝炎ウイルス検査陽性者への検査結果通知や受診勧奨については、電子カルテシステムを利用した取り組みや、肝炎医療コーディネーター（検査技師など）による陽性者の拾い上げといった取り組みの有用性が報告されており、それぞれの医療機関でHBV再活性化対策の連携体制を構築していただきたい。

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新 手続き時期
子宮がん検診実施 (一次検診)医療機関	令和6. 4. 1～令和7. 3. 31 (2024. 4. 1～2025. 3. 31)	令和6年度中
肺がん一次検診医療機関	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中
乳がん検診一次検査 (乳房X線撮影)医療機関	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新 手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31 (2024. 4. 1～2027. 3. 31)	令和8年度中	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31
子宮がん検診精密検査	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31 (2024. 4. 1～2027. 3. 31)	令和8年度中	令和6. 4. 1～令和9. 3. 31
肺がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
乳がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
大腸がん検診精密検査	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31 (2023. 4. 1～2026. 3. 31)	令和7年度中	令和5. 4. 1～令和8. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	令和4. 4. 1～令和7. 3. 31 (2022. 4. 1～2025. 3. 31)	令和6年度中	令和4. 4. 1～令和7. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回/年 西部 1回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 5回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただくこととなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たさない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び 子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会
10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 5回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（令和4年4月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。また、各種学会については、出席したことが証明できる書類等の写しを提出すること。

（別記）対象となる講習会等

講習会の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵疾患研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 3回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝癌治療研究会	全県 1回/年	3点
日本消化器病学会（総会、大会、支部例会）	総会 大会 各1回/年 支部例会 各2回/年	2点
日本肝臓学会（総会、大会、支部会）	各 1回/年	2点
日本超音波医学会（学術集会、地方会）	各 1回/年	2点
日本肝癌研究会	各 1回/年	2点

（注） 上記以外の講演会等については、協議会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あ と が き

新型コロナウイルス感染症の感染者数は決して少ないとは言えませんが、ようやく社会生活は日常を取り戻してきました。がん検診の実施も令和6年度はおおむね通常通りですが、受診率の低迷は続いております。2020年の全国がん登録に基づくがん罹患集計においても、年齢調整罹患率は全国値よりも高い状態が続いております。引き続き精度の高いがん検診を実施し、受診率と精検受診率の向上に努める事が求められます。鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第31報です。この報告書は単年度のがん検診の全体像を一覧いただけるものと考えております。がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますのでご承知おき下さい。編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の皆様にはいつものように強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から感謝申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫